第一年 第四號 大正十二年五月號 毎月一回一日發行 東京市外

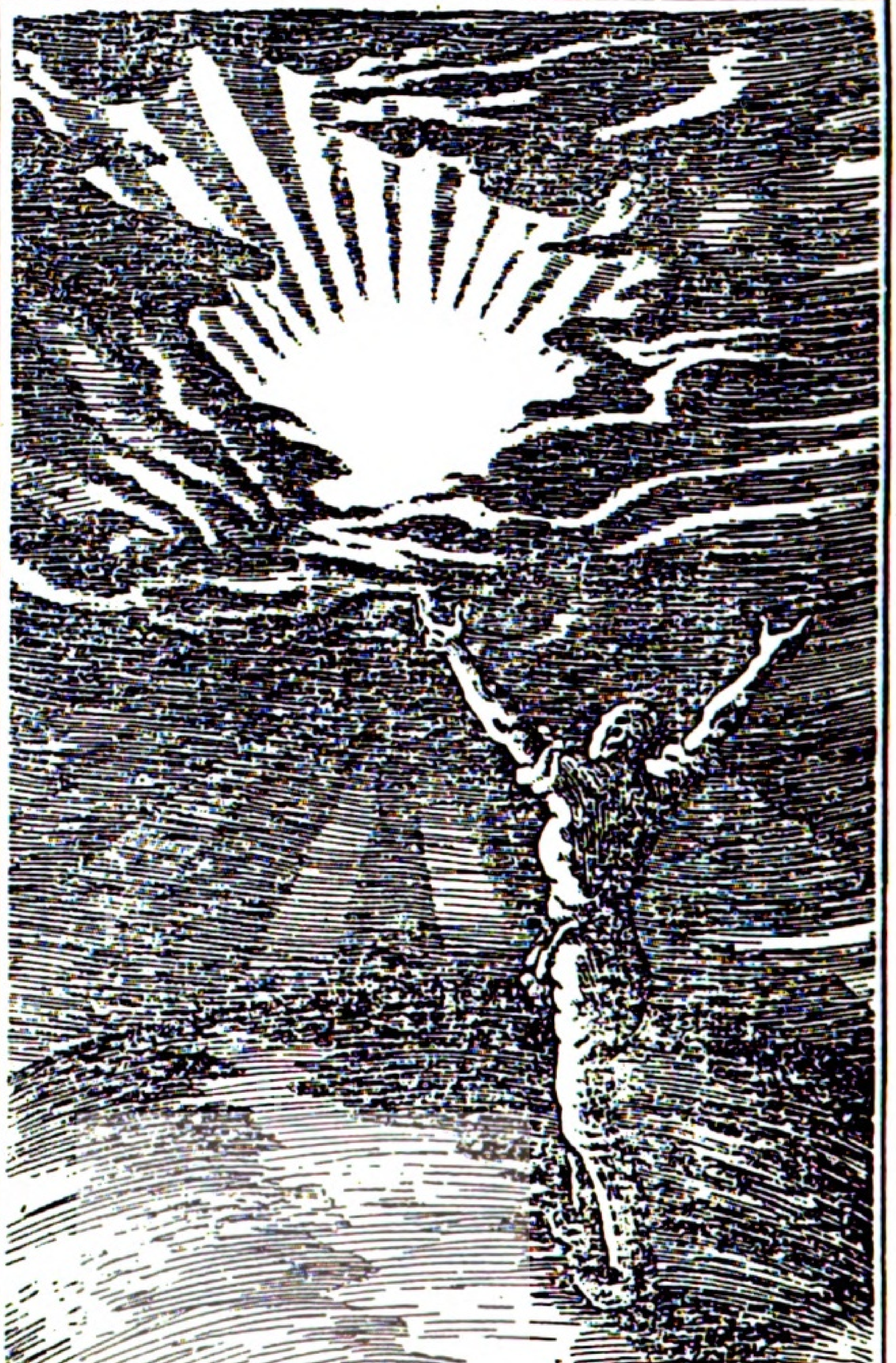
メーデー號

戰鬪雜誌

進め

Fighting Magazine
Su Su Me.
No. 4. vol. 1
May. 1923

福田狂二 發行
北原龍雄 編輯



第一年第四號內容

無産階級政治運動の研究……朱・高津・北原・田所
革命狂語……福田狂二
法律逆用の意義と實例……山崎今朝彌
青森縣の尻屋村（實在共産制研究）……鈴木東藏
メーデーの意義と歷史……

メーデーを迎へて
メーデーの經驗と挑戰……麻生久
婦人と大衆運動……仲曾根貞代
メーデーと朝鮮の問題……朱鐘健
四度目のメーデー……佐々木茂子
メーデーと屋外運動……高津正道
メーデーと失業問題……横田千元

メーデーの回顧……堺利彦
魔術の種あかし（國定教科書批評）……久保田凉
反對運動に對する所見……諸氏
記憶を辿りて……岡千代彦
小作人の立場（リーフレット）……北原龍雄

一部十錢

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

福田狂二著　近刊　四六版　約五百頁

日本叛逆史

私は反逆が好きである。すべての反逆物語は、少年時代から最も嬉しい讀物であつた。軍隊に入つて、嚴重なる規律の中へ縛り付けられても、胸をそゝる反逆の激情は消え去らず、鐵板を突き破るやうな思ひで屡々それを爆發させた。前後通計七年八ヶ月、鐵窓の下に沈思省察の日を送つた間からも、反逆に對する愛着は、益々熱と力とを帶びて來た。

靜かに既往の生活を顧みる時、常に何事かを爲さんとしつゝ何事も爲し得なかつた事を思ふ時、人に對するよりも、私は私自身の反逆心に恥づかしさを覺ゆる。併しながら、人間の志業は時の力を借らなければ行はれない。物足らぬ思ひに日を送る者、決して私一人ではないであらう。

かゝる日を送る間に、私はせめて我等の祖先が反覆して來た反逆戰の跡を偲ぶ事とした。そうして最も深く史書を讀まんが爲に自ら反逆史の稿を草する事とした。それが卽ち本書である。

私に素より深き史學の素養はないが、骨髓に泌む反逆の心を抱いて史書に對した。眼光自ら史背に徹するもの無からざるを得ない。所謂史家の觸るゝ能はざりし所の、我等の民族の血脈に波打ちし反逆の魂を、紙背より摑み來りて展開した所に一點の特色あるを自信する。又、志情を同じうする友人北原龍雄君が、その唯物史觀的史眼を以つて助勢してくれた事に依つて、稍もすれば激越に逸せんとする筆に、純正なる科學的理路を辿らしめ得た爲めに、本書が單なる慷慨の文字にあらざるを自信する。（著者）

支局開設の報告

神奈川縣支局　横濱市根岸二九八六　主任　糸川二一郎

靜岡縣支局　靜岡市御器屋町六　主任　久保田凉

愛知縣支局　名古屋市中區南辰巳町三七　主任　片桐市藏

支局經營の希望者に

全國各地に支局經營の希望者を求む。雜誌の販賣と廣告の募集とに依つて、一縣二三人位は食えやうと思ふ。これで食ひながら、白熱的な運動に從事せうと考へられる人は無いであらうか。それが私等の望む理想的の候補者である。進め社、安達謙吉宛申込を乞ふ。

プロレタリア戰線の旗影

（半月刊）
勞働新聞
菊四倍四頁　五月五日第十號
一部五錢
一年一圓廿錢
東京小石川掃除町
勞働新聞社
振替東京六二一七一二

（月刊）
赤旗
菊判八十八頁　五月　日第二號
一部四十錢
一年四圓
東京神田小川町
赤旗社
振替東京五四七七

（月刊）
農民運動
四六四倍八頁　四月十五日第八號
一部十錢
一年一圓廿錢
東京戸塚源兵衛
農民運動社
振替東京五八一二四

大衆の眼

大衆の眼は輝いて居る。
靜かな足取りで、默々として歩む時にも、その眼だけは輝いて居る。
憤激と希望とに輝いてゐる。
大衆の眼の輝きが、次第に熱を帶びて來る時、その足取りは速度を高め、その腕には力がこもり、その口から雄叫びがあげらるゝであらう。
その時、歷史は革めらるゝのだ。

大正十二年五月　戰鬪・進め・雜誌　第一年第四號

政治運動としてのメーデー

一　メーデーの意義は、一方では全世界的なる所にあり、他の一方では全日本的なる所にある。全日本のプロレタリアが、又全世界のプロレタリアが、同じ時間に調子を揃えて起ち上ると言ふ事に依つて、個々の運動の力の綜合の他に、新しき別個の力と意義とが湧き上る。

別個の力とは、一面に於て國際的なる力であり、他の一面に於て政治的なる力である。即ち、メーデーは全世界に共通せる運動なる點に於て、プロレタリア運動の國際的性質を高調して居り、全日本に普遍せる運動なる點に於て、プロレタリア運動の強き政治的性質を表現する。

二　運動が全國的なる場合、客體は國家の他にあり得ない。假りに當面の要求が、純經濟的のものであるとするも、又、運動の心理は資本家を對象として行はれてゐるとするも、全國的なる運動は、本質上政治的のものである。蓋し全國的なる運動の力と熱とが、一定階段に達する時、その前面に現はるゝものは國家の力である。國家を客體とする運動の本質はそこに示現せらるゝ。

三　日本にても、政治運動に伴ふ最大の危險は議會の陰に潛んで居るであらう。無責任なる、妥協的なる議會の空氣は、そこに送らるゝプロレタリアの闘士を、發音ばかり見事なる骨拔士紳と化せしむる。然れども妥協性は、代議士と言ふ立場に取つて、實は存在上の一條件である。故に若し、代議士がプロレタリア政治運動の代表機關であり、議會行動がプロレタリア政治運動の本流であるとすれば、代議士の軟化と共に運動全體も亦軟化し墮落するの他はない。此の事は實際、政治運動自體に對する價値否定を唆るまでに、政治運動に對して濃厚な不安の影を投じてゐる。

たゞ、大衆自身の政治行動が、後方から壓力を加ふる事に依つてのみ、此の危險は防がるゝであらふ。そうして、大衆自身の政治行動は屋外示威運動を以つて、代表的形態と見做さなければならぬ。即ち、メーデーの如きがそれである。此點より見れば、メーデーは實に政治運動の中樞を構成する

四　メーデーには獨りよがりのアナキストも參加するであらう。無省察なる政治運動を否定しつゝ、なほ實質上の政治運動に參加するアナキストに依つて私は社會の力を認めざるを得ない。大衆の歩みが、我が儘な個人を吸收して行く所に、不可抗的なる社會力の權威を見る。

五　メーデーは政治運動である。此の日、我が大衆の政治的勢力は一段の發展を遂ぐるであらう。私等はこゝにメーデーの大きな意義を認める。(龍)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

革命狂語（一）

福田狂二

暴力に對して

社會主義者が權力階級から如何なる形式を以て不法に出でられたりとも、之を非立憲又は不法行爲であると攻撃することは出來ない。又、國粋會や其の他の暴力團體から、毆撃され暗殺されても、之を駁する理論は社會主義者にはない。何となれば社會主義者は××てふ××を是認し、之に向つて進んで行くものであるからである。社會主義團體それ自身が既に××團體である。議會政策を主張する社會黨は、歐州戰前にはあつたが、今や、最も多くの共産主義者は政治的直接行動を是認して居る。されば暴力を加へらるゝとも、之を論議批難してはならぬ。自ら××を標榜する理論に立ちながら、他人の××を批議するは何ぞ卑怯にして不徹底なる。

近頃、警視廳や國粋會が、社會主義者に對して、××を用るとのことだが、我々は飽くまで之に對抗し、敗くれば又、次の機會に於て報復し對戰しなければならぬ。二度も三度も四度も五度も百回も二百回も、生命のあらん限り、彼等と闘爭しなければならぬ。苟くも××運動に參加するものは、殺すか殺されるかの二つに歸着すると云ふことを覺悟し須臾も忘れてはならぬ。人は生るゝや必ず死なゝくてはならぬ。死は一度である。社會黨は正義人道を背景とし人類を救濟する大事業を志す。古來、幾十萬の同志は刑殺され、暗殺せられ、私刑されたのである。吾人豈に一人晏如として死を全これ努むるを得んや。孔子曰く『殺身而爲仁』と孟子曰く『捨生而取義』と、佛又曰く『不惜身命』と吾れ此の心を以て戰はん、又此の心を以て死なん。斯くてこそ生きて甲斐あり、死して餘榮あり。

牢獄即道場

身を革命運動に投ずる者に取つて、牢獄は實に絶好の養心道場である。鐵窓裡に幾星霜の試煉を重ねてこそ、氣魄あり操守ある、眞乎の革命兒たるを得るであらう。

凝つては百煉の鐵となり、發しては萬朶の櫻となると、松陰は人間正大の氣を詠じたが、正大の氣を凝集せしめ結晶せしめ百煉の鐵もなほ斷つ能はざる大勇猛心たらしむるものは、實に牢獄の壓力である。故に曰ふ、牢獄は養心の好道場なりと。

吾人の言の奇を咎むる勿れ、資本主義社會先づ奇なり、挺身して之が革命を計らんと欲する者亦奇なり。奇は革命兒の運命たり。養心の途も亦奇ならざるを得ないのである。

併しながら、奇は常に快を伴ふ。石壁に凭つて皚々たる白雪を望む冬の牢獄、熱風鐵窓を潜つて坐身に迫る夏の牢獄、獄吏を叱咤しつゝ快心の詩篇を微吟する旦や、獨房の靜裡に胸を撫して驚天の大業を想ふ夕や、げに獄裡ならでは味ふ事の許されぬ清快境である。

手足は縛られて魂は愈々飛躍し、肉眼の視野限られて心眼愈々開かれ行く、牢獄の妙趣は味ふた者のみ知る事が出來る。

苟くも、社會運動の第一線に肉彈を曝さんと志するの人は、必ず先づ牢獄の養心期を通過せよと勸めたい。後日牢獄生活を顧みて、心暗く四肢戰く者は、素より第一戰線上の人ではない。牢獄の追憶に依りて自ら勇氣百倍し來る者にして、始めてその信念決意を賴むに足る。試金石としても牢獄は絶好の機會である。

獄に投ぜられ、前日までの壯語跡方もなく、焦慮懊惱ひたすら保釋を哀訴するやうな者もある。此の種の人に對しては、國家は牢獄に依つた一人の闘志を奪ひ得たるを悅ぶに足る。然れども、同時に社會黨も亦、その一同志の赤大根の表皮を剝ぐを得たるを悅ばなければならぬ。爲すなき者を賴むは危險此の上なし。眞の同志は牢獄の修道者中より選べと言ふも、亦必ずしも過言ではない。

牢獄よ、我れ汝を愛す。汝願くは我黨闘士の好道場たる本質を失ふ勿れ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

メーデーの回顧

堺利彦

『週刊平民新聞』第廿五號（明治卅七年五月一日）には、メーデーに關する記事が一つもない。當時我々はまだメーデーの事を知らなかつたのだ。

同卅二號（六月十九日）に初めて左の記事がある。

『桑港の五月一日。歐米の社會黨は五月一日を萬國勞働者の祭日と定め、毎年この日は各地に於て、思ひ思ひに或は演説會を開き、或は公園にて運動會を行ひ、又或は隊を組みて市中を練り行くの習慣を有し……』云々。

然しそれよりもズット以前、メーデーの事が日本に紹介されてゐる。明治卅三年七月の『國民之友』に、當時パリにゐた酒井雄三郎氏の『五月一日の社會黨』といふ通信が載つてゐる。けれども明治卅七年には、我々は其の事を知らずにゐた。或は忘れてゐた。

『直言』第十三號（明治卅八年四月三十日）には、初めてメーデーの集會が記されてゐる。『五月一日茶話會。五月一日は萬國勞働者の紀念日であります、吾等も此日に於て聊か祝意を表する爲、茶話會を開く事に致しました』云々。

同第十四號には『露國の五月一日』と題する記事があつて、『此日僅かに狹隘なる平民社樓上に跼蹐せざるを得ざりし吾人豈に深く羞じて而して發憤せざるを得んや』とある。そして猶ほ同號には、メーデーの由來を説明した石川旭山君の一文と、『勞働の赤旗』（五月一日此詩を作る）といふ山口孤劍君の詩が載つてゐる。

『光』第十一號（明治卅九年四月廿日）には『有志茶話會。五月一日』の廣告がある。その後も小さな茶話會以上の會合はなかつた。

『新社會』第三卷第十號（大正六年六月）には『メーデーの小集』と題する記事がある。『五月七日の夜、東京の社會主義有志者は山崎氏の宅で……小集を催した。來會者は三十名ばかり、山川氏は簡單にメーデーの由來を述べて此の會を開いた。續いて高畠、吉川、山川の三氏から露國今回の事變に對し有志の決議を露國社會黨に送るの提案が出で、……拍手が起つて室内は一種の緊張した空氣に滿された。』

六年前まで斯ういふ形勢に過ぎなかつたものが、一昨々年初めて上野の野外集會になつた。勞働者の本隊が初めてメーデー運動をやりだした。それから一昨年、昨年を經て、今年が四回目だ。水曜會のパンフレット『五月一日』が一萬部、インタナショナル社のリーフレットが數萬枚も發行されるといふ勢ひだ。誠に今昔の感に堪へない。

然しそれでも矢張り赤旗は立てられない、白い旗でも四本に限られる、思想團體の參加は許されない、社會主義者は檢束される、といふ有樣だけれども、失望する事は少しもない。形勢は展開する。たとひ一時の蹉跌や反動はあつても、運動の潮流は駸々として進んでゐる。

プロレタリヤ萬歳！

メーデー萬歳！

ロンドンのメーデー

野坂鐵

一、ロンドンで、一昨年のメーデーを觀た。先づ、消費組合の美しい山車が十數臺來る。その車の上では、社會主義日曜學校の少年少女が、赤旗を振りながら、革命歌を高唱する。山車が通ると、それからが本隊だ。四疊半もありさうな大きな勞働組合旗を先頭に、一小隊毎に樂隊を附け、『インタナショナル』や『赤旗』などを唱ひながら數萬の男女勞働者が續く、共産黨のやうな革命團體はロシアのマークのついた赤旗を押し立て、進む。ともかくも、スバラシイ行列だ。

だが、行列の通過した後で僕の感じたことは、……これだけの勞働者が、いのちがけで××に向つて突進するならばナア……といふ一事だ。

二、無理に示威運動に加はらなくてもいゝ、重要な工場の機械が×××みたい。殊に電車、汽船、汽車、電氣、瓦斯、水道などが×××みたい。それがためには、早速、勞働組合を主體として、これに思想團體も加つて、メーデー準備全國委員を作り、全國に向つて宣傳を開始する必要があると思ふ。

メーデーの意義と起原

一

メーデーは勞働者の日、無産者の日である。一八九〇年以來、全世界の無産階級は此日を期して一齊に休業し、資本家的搾取に對する抗議と、階級戰に於ける進軍途上の勢揃ひとの機會としてゐる。此日を祝ひ、此日を紀念して國際的團結を固め、階級意識を强めることは、吾々の誇るべき權利であり、光榮ある義務である。日本の勞働階級が最近に至つて此世界的な階級的祝祭を紀念するようになつたことは、とりも直さず、日本の勞働者の間に國際的精神が目覺めて來たとを語るもので、此一事によつて、日本の勞働運動は萬國無産者の前に、その血を分けた兄弟である事實を最も明白に、最も深刻に表示したのである。日本の勞働者はその支配階級の傳統的政策の道具でもなく、血に渇した侵略主義の惡魔でもなく、實に全世界の勞働者と同じ悲しみ、同じ喜びを頒つ、温かい血の通つてゐる同僚であることを、何よりもよく證據立てる事實の一つは、此メーデーの運動に參加する一事である。

東京や大阪や神戸や、其他大小有ゆる都市や鑛山や村落で幾十萬の日本の勞働者が、メーデーの爲に歡呼の聲を擧げる時、倫敦でも伯林でも巴里でも紐育でも、そして最初の勞働者共和國である露西亞の町や田舍でも、すべて自覺ある勞働者の住む處である限り、人種を異にし、言語を異にし國土を異にしながらたゞ一つ階級のみを等しくする全世界の兄弟が、同じ感激に胸を燃え立たせ、同じ心でメーデーの萬歲を叫ぶのである。

地球上の勞働者はすべて吾々の友達であり、味方である。彼等の外に吾々には賴るべき、又愛すべき何者もなく、彼等と相援け、相勵まして解放への戰ひに進むよりほか、吾々には正義もなく、人道もない。彼等の勝利は吾々の勝利である、彼等の敗北も亦吾々の敗北である。隨つて吾々の一進一退、一勝一敗も亦、決して吾々だけの問題でなく、直接間接、實に全世界の兄弟の運命に影響する問題である。それは恰度、一筋の脈管、一搏ちの鼓動が、生命全體に對すると同じような關係にある。かう考へて見ると吾々の責任も亦、實に重いと云はねばならぬ。

メーデーは此責任を愈々强く自覺する日である。國際主義の上に立つ階級意識を一しほ鮮明にする日である。

兄弟よ、姉妹よ。年々にメーデーを盛にしたいではないか。無産階級の歷史的使命を祝するために。そして全世界の勞働者が、凱歌を以てメーデーを祝ひ得る日を早めるために。

決戰の日は近づいてゐる。萬國の無産者團結せよ！

二

一八八四年、米國全土の各種勞働團體は、毎年五月一日を期して八時間勞働の實現を目的とする總同盟罷工を決行する決議を通過し、翌々一八八六年五月一日を以て、その第一回示威運動の日に指定した。一八八五年十一月より十二月にかけて、殆ど同時に開かれた勞働ナイト會及び米國勞働聯合會の大會は、八時間運動を益々盛んにすること、全國の勞働者は翌年五月一日を期して一齊にその傭主に向つて八時間勞働を要求すること、萬一容れられぬ場合には斷然罷工を決行し、その日以後八時間以上の勞働に服せぬこと、等を決議した。爾後この運動は翌年五月一日に至るまで激烈に繼續せられた。その結果、五月一日の來るのを俟たずに兜を脫いだ傭主も少からず、彼等は四月中旬以降、在來と同じ賃銀で八時間勞働を實施せしめられた。

愈々一八八六年五月一日は來た。全米國にありとあらゆる職業に從事する勞働者は、一齊に仕事を中止して、聲を合せてかう歌ひながら街や廣場を練り歩いた。

けふより後、一人の勞働者も
八時間の上は働くな
八時間の勞働！　八時間の休息！
八時間の教育！

この結果は驚嘆すべきものであつた。五月一日以降、僅々數日

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

間に十二萬五千人の勞働者が八時間勞働を獲得し、更に一ケ月後には、二十萬人が同じ成功を博した。これより後メーデーは永く北米勞働者の記念日となるに至つた。

三

一八八九年巴里に生れた第二インターナショナルは、爾後メーデーを以て萬國勞働者の國際的同胞主義と階級的一致とを表示するための、總動員の日と決めた。これは云ふまでもなく、米國勞働者の成功の前例に動かされたのと、歐米兩大陸に通ずる世界的の大示威運動の、有形無形の效果を信じてのことであつた。『八時間勞働』、『常備軍廢止』、『戰爭に反對する戰爭』が最初のメーデーの標語であつた。

一八九〇年に行はるべき最初のメーデーの評判は、兼ねてから歐羅巴のブルジョア階級の心膽を寒からしめた。維納、巴里其他の大都市では、勞働階級の一揆を豫想して幾萬の軍隊を即時に動かす準備をして居つた。かくて最初のメーデーは、兩大陸を通じて、大小無數の工業都市に依て祝福せられた。倫敦のハイド・パークで行はれた大示威運動の如きは、參加者の總數無慮二十五萬と註せられ、十六ケ所に演壇を設けたほどの盛況であつた。

越えて一九〇四年、アムステルダムで開かれた第六回國際社會黨大會は、最後の日にメーデーの休業と示威運動との決議を繰返した。

一九〇六年、國際社會黨本部は、佛獨英の三國語を以て記した『五月一日萬國聯合示威運動』と題する小冊子を發行して、八時間勞働の獲得について世界の勞働者に訴ふる宣言を公にした。曰く、

『國際社會黨は、五月一日を選びて、階級的自覺を有する萬國の勞働者が、その業を休んで示威運動を行ふべき日と定めたり。

『此示威運動たるや、資本家制度に對する定時の警告にして、勞働階級は是に依て、その解放を追求する確乎たる信念を表明し、併せてこの信念が國際戰爭の如き誘惑物に依て、決して惑亂せられざることを宣言するものなり。

『この運動は、各國無產階級の一致結合に依て始めて勝利を得べく、又勞働階級をして平和と自由とを全世界に賦與せしめ得べきものなり。

> メーデーは國際的祭日である。其れは過去に於ける勝利を祝ひ敗北を記念し、未來の爭鬪に對する勇氣を誇示すべき日である。尊き主義の爲めに倒れた勇壯なる殉教者を頌揚するのは此の日である。其れは世界中到る處で行はれる事それ自身が、既に無產階級の歷史的使命を語つて居る。北京に於ても巴里に於ても、同志は全世界の同志との團結を締び、革命の萬歲を叫ぶであらう。羅馬の街道には伊多利無產階級の足音が高く響く、伯林の街上を進軍する獨逸勞働者は彼等のローザ・ルクセンブルグとリープクネヒトの墓上に花環を置く。世界の有らゆる資本主義獨裁下に在る無產階級は擧つて立ち、相呼應して進軍の喇叭を吹く。
> ―（横田）―

『各國の團結せる勞働者は、法定の最長勞働時間を一日八時間に限るを以て、自己階級解放の根本條件の一と思量し、勞働組合の活動と立法的手段とに依て是を略取し得べしと信ず。

『產業愈々發達すれば、其結果は勞働者を結合し、その勞働を劇甚にし、生產狀態を單一にし、以て時間の制限を愈々必要に、愈々容易ならしむる傾向を作る。

『八時間勞働がよく勞働力に新活氣を與へ、種族の退化を防止し、大多數の無產者をして、人類の智德的生活に入らしむる手段となり得ることは、今や益々明白となれり。

『吾人は勞働者が切迫せるこの示威運動に參加して、以て此希望を實現せんと欲する彼等の意思を、更に鞏固にせんことを希望す。

五月一日に於て休業せよ！
五月一日に於て示威運動を行へ！
勞働を祝福せよ！』

爾來この祭日は歐米兩大陸のあらゆる種類、あらゆる部門の勞働者に依て行はれ、爲めに資本家階級は此日を以て一大厄日を看做し、戰々兢々としてその到來を待つの有樣であつた。

（山川菊榮氏の『メーデー』より）

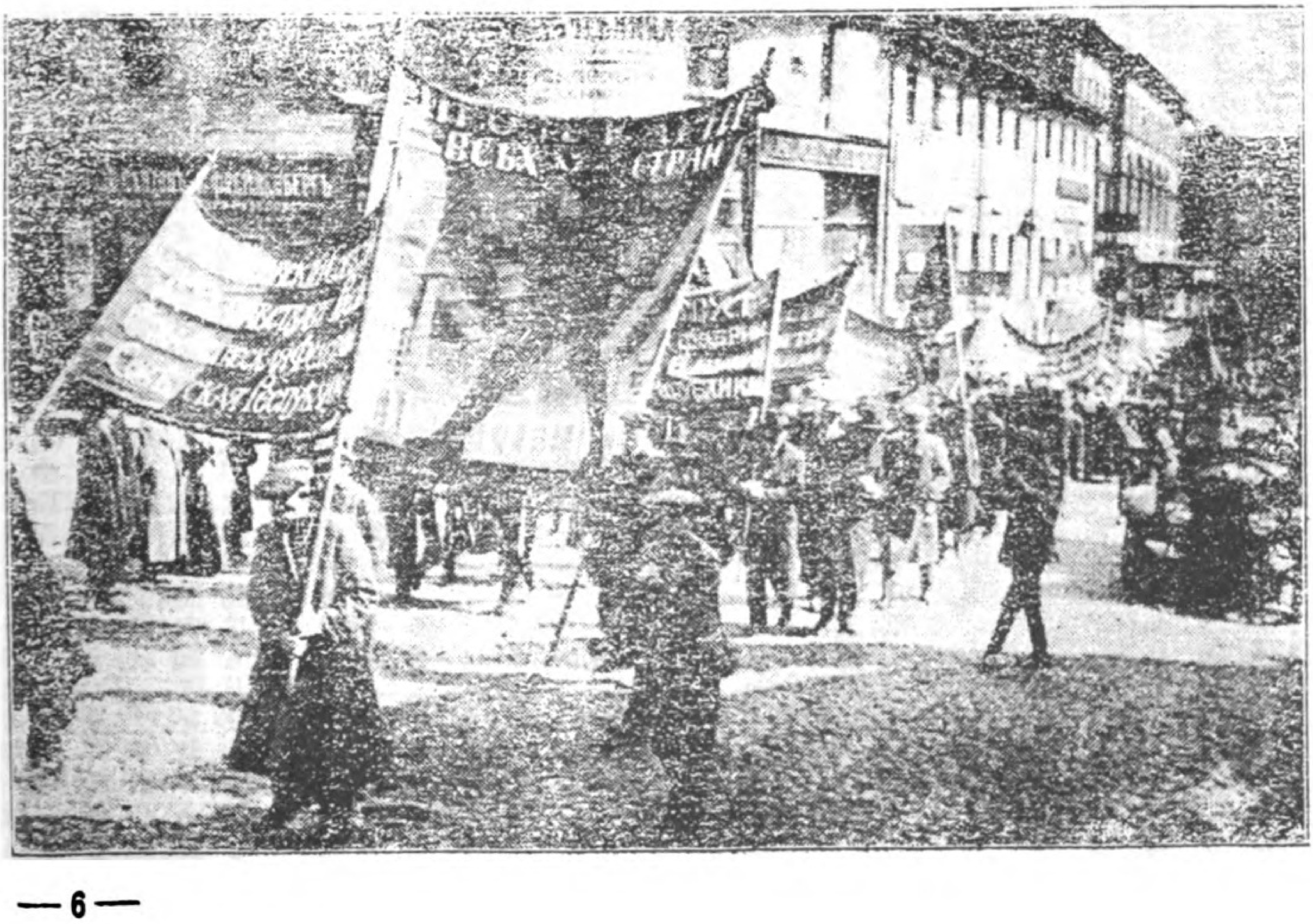
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

メーデーを迎えて

メーデーの經驗と策戰

麻生久

メーデーの經驗と云つても未だ日本では三回しか行はれぬので、大した經驗もありません。第一回の時は上野で行はれたが此時は勞働運動が氣がそろつて居たので、最初としては比較的に成功でした。あとの二回は私は足尾と北海道に居り、足尾では盛大に行はれました。今年は又東京に於ても皆が大分氣がそろひかけて來たので盛大に行くかと思はれ、又是非さうせねばならぬと思ひます。策戰と云つてもさしあたり大した考へもありません。勿論、あゝもしたいこうもしたいと云ふ希望は山程あるが、現在の運動の狀態と考へ合せて最上の方法をとらねばならぬので、其希望を一々述べても致方がありません。私は標語等も複雜で面倒くさいものでなく、只××と云ふ事に向つての意識を明かにし、又強めるものにしたいと思ひます。それには必ずしもメーデーの歷史に執着した標語や、ピリッと來ないモットーを澤山かゝげる事よりも、殊に東京では簡單明瞭でピリット來るものを一つ掲げたらと思ひます。そして、此日は勞働爭議等の場合と異つて、日本の現在では示威運動が主なるものだから、それは出來得る限り××的な猛烈なものにしたいと思ひます。場所は上野がよく・之れは、早く手をつけねと駄目になります。運動は、全國の都市、鑛山、農村、至る處で、假令示威運動が出來なくとも、何等かの方法でメーデーの運動を、一般に意識せしむる方法をとる事が肝要です。假令、演說會で



勞農露西亞のメーデー（二）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

も、小集會でも、小集合でもして、××に對する宣傳ビラをまく方法をとりたいものです。此日は檢束結構、××結構、出來得る場所では、出來得る限りの事をしたいと思ひます。私は今日九州に立つて行きますので本年のメーデーは九州で迎へる事になるでしやう。どんな事になるか行つて見ねばわかりません

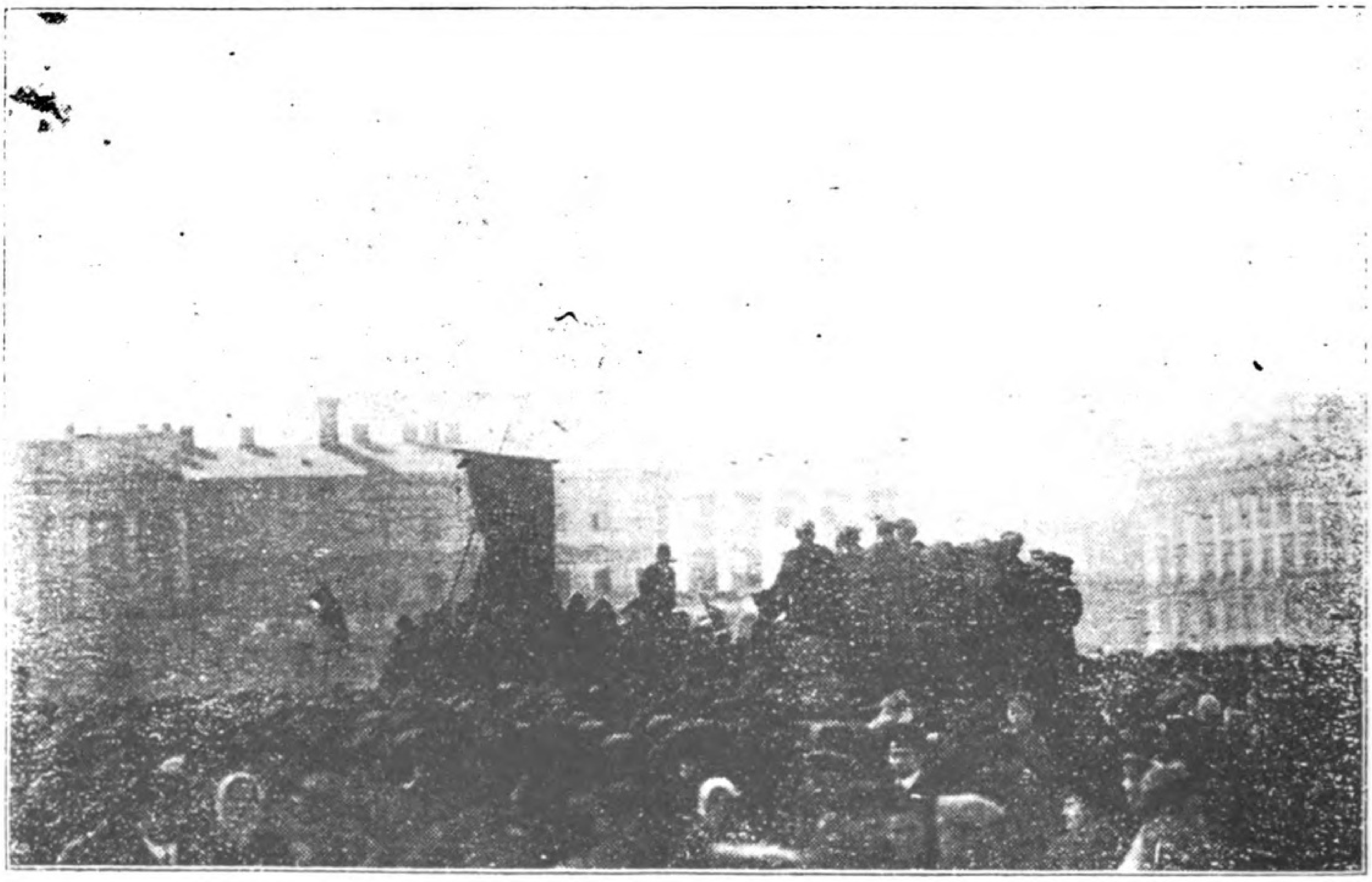
婦人と大衆運動

仲曾根貞代

個人として見たとき、一般的に言へば、婦人は最も力の弱いものです。然しそれは婦人本來の姿ではなく、社會的に征服され、隷屬されて來た結果に過ぎない。その餘りに悲慘な被征服隷屬の結果として婦人の心理の裡には、ヒガミと狹量とが根強く巣喰ふて居ます。ヒガミと狹量、それは團體行動に最大の障害であり根本的な缺陷であることは申すまでもありません。婦人がこのヒガミと狹量とを持つことを、極度に計算するとき、婦人運動は絕望です、少くとも婦人自身の團結に依る婦人運動は絕望です。

然し乍ら私共は、さう言つて濟まして居られるでせうか。いゝえ、それは許すべからざることです。何が故に婦人は、ヒガミと狹量との非社會的根性を持つやうになつたか。私共は、私共婦人にこの奴隷根性を植えつけた被征服の永い歷史に反抗して立たうとする以上、絕えずこの奴隷根性を自らの裡に征服して團體的行動を促進する樣に努めて行かねばならぬのです。そのために私共はもつと〳〵訓練されねばならぬと思ふのです。

個人として見た婦人の力は弱いものであるにしても團體としての婦人の力は決して侮るべきものではないのです。社會運動に自らを獻身する男の人達にもこの點の理解が乏しい樣に思はれるのは殘念なことです。先年全國的に火が廻はつて爲政者をして極度に驚愕せしめたかの米騷動も、富山縣下の或町に起つた婦人の爆發的な集團行爲が最



勞農露西亜のメーデー（二）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

初の火の手であつた。更に全世界の資本主義の目前に共産主義の怪物を地底より呼び起したのも、一九一八年三月八日に露國無産婦人が行つた一大示威運動ではなかつたか。無産婦人の大衆的團結が出來上る時、革命の曙光は闇を破つて輝き出すでありませう。

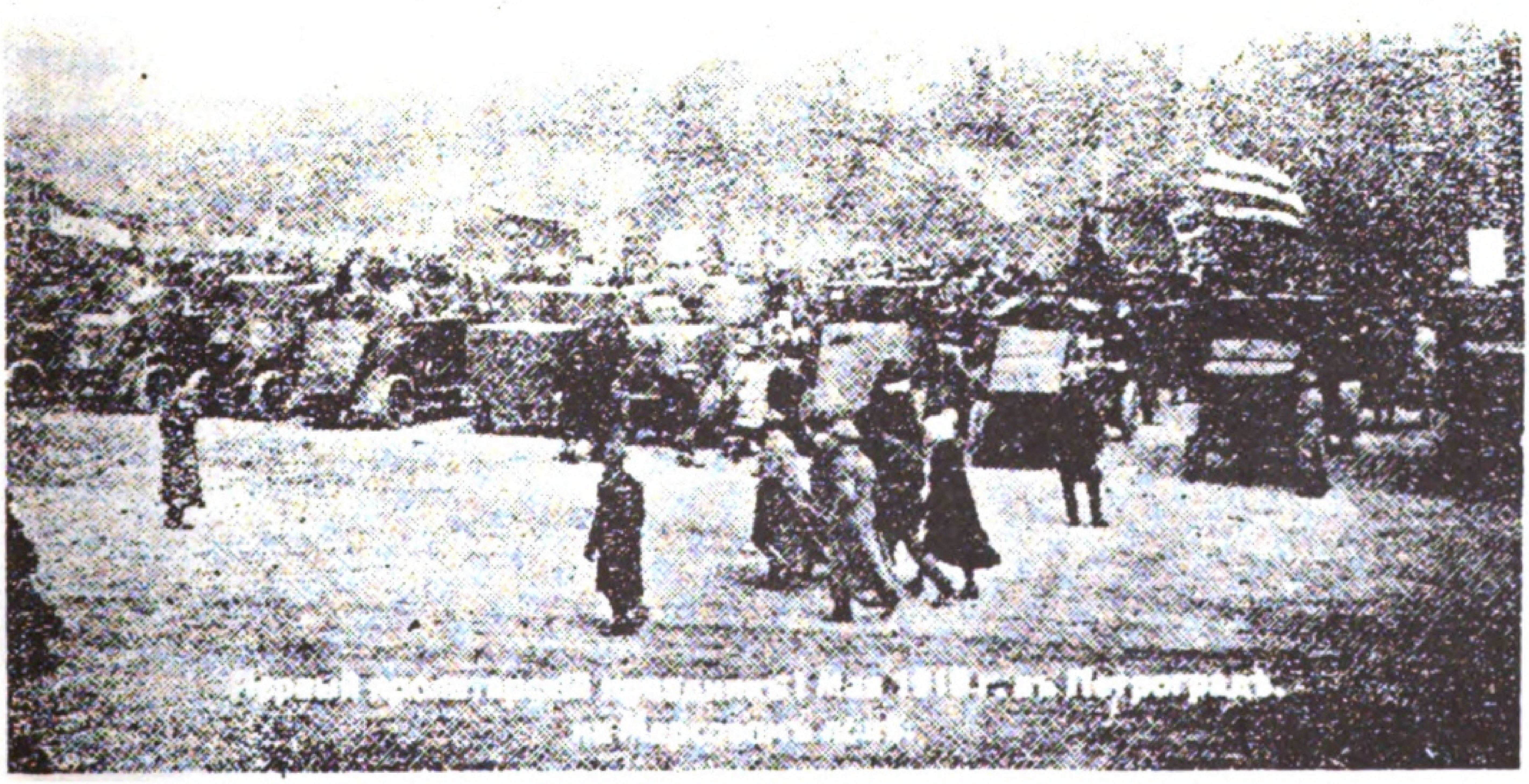
日本に於ける第二回のメーデーの示威運動には、婦人の一團が參加しました。その時の示威運動は最も戰鬪的な氣分に燃えた行進だつたのです。メーデーの示威行列が葬列でない以上、戰鬪的であることに反對する人は一人もないのでせう。然し、その戰鬪的な示威行列に婦人が參加した事に對しては、理解のあるべき筈の人達の口からさへ無理解な言葉をきかされたのでした。

婦人が示威行列に參加する事を兎角いやがる人達は、上つ調子だとかお轉婆だとか言ひますけれども、其言葉はその人達自らの無理解を裏書するに過ぎません。婦人が示威運動に加はる事は、その行列を遊戯化し葬列化するためではなく、正反對に情熱化し戰鬪化し深刻化するために必要なのです。故に參加する婦人自身がまづ第一に眞劍であり、眞面目でなければならぬことは申すまでもありません。見せびらかしであり、浮足であることは婦人として自らの任務を忘れ、自らを侮辱するものだと思ひます。

無産階級の社會運動が大衆化を叫ばれて居る今日、來るメーデーに婦人が參加するかせぬかについては、なほよく考へて見なければならぬと思ひます。單に理論の上から考へれば參加すべきは無論のことだと思ひますが、現實の問題として、今年の示威行列に參加するか否かは、種々の利害關係を考へた上、更に多數同志婦人の意思によつてきめらるべきだと思ひます。私としては、若し示威運動に參加することが出來ないとすれば、何か他によい方法はないものかと考へつゝあります。

將來は是非無産婦人大衆もメーデーには一齊に仕事の手を休めて、一大示威運動を起すやうにならなければならぬと思ひます。その日の一日も早く來るこ

勞農露西亞のメーデー（三）



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

とを希望すると共に、そのために微力を盡して行きたいと思つて居ます。

メーデーと朝鮮の問題

朱鐘建

プロレタリアの××運動は、最初、單なる『狀態の改善』に關する運動より出發して、遂ひに『社會組織の根本的變革』を終局の目的とする點にまで發展するを常とする。

メーデーの歷史も亦、その軌を踰えなかつた。即ち米國勞働團體が一八八六年五月一日を以て第一回の示威運動の日としたときに於ては、その目的は『八時間勞働制の要求』にあつた。が國々のプロレタリアの國際的同胞主義と階級一致とを表明する爲め、爾後メーデーを以てプロレタリアの國際的總動員の日と定めようとした一八八九年國際社會黨第一回大會の決議の結果、それは一つの國際的運動となつて現はれ、それより五年後一九〇四年の國際社會黨第六回大會に於ては、階級的に自覺した國々の勞働者が一切の仕事を休んで行ふメーデーの『この示威運動は資本主義制度に對する定期の警告であつて、勞働階級はこれによつて、その解放を要求する確乎たる信念を表明し……』と云ふ宣言が公表された。

メーデーは既に『狀態改善』の運動ではないのである。

プロレタリア革命は、世界革命の完成によつて始めて本來の機能を發揮し、また十全の成果を收め得るものである。プロレタリアは、少くとも革命的プロレタリアットは、その直接の搾取者――壓迫者――に對する反逆のみで滿足すべきでない。百尺竿頭一歩を進んで、世界的運動の促進に努力すべきではないか。そしてそれが返つて當面の敵に對し、決定的の打擊を加へる有効な方法の一つではなからうか。

勞農露西亞承認、西伯利亞撤兵、對露非干涉の運動の如き、將又ルール占領に關する佛蘭西

勞農露西亞のメーデー（四）

大使館に對する抗議的行動の如き、最近に至つて漸次國際的に發展する樣になつたとは云へ、日本のプロレタリアの國際的共同戰線への發展は、理論的方面に關する進步の割に、未だ幼稚であることは否定されまい。と云ふのは、例を遠くに求むるまでもなく眼前に展開されてゐる事實が雄辯に證明するのだ。

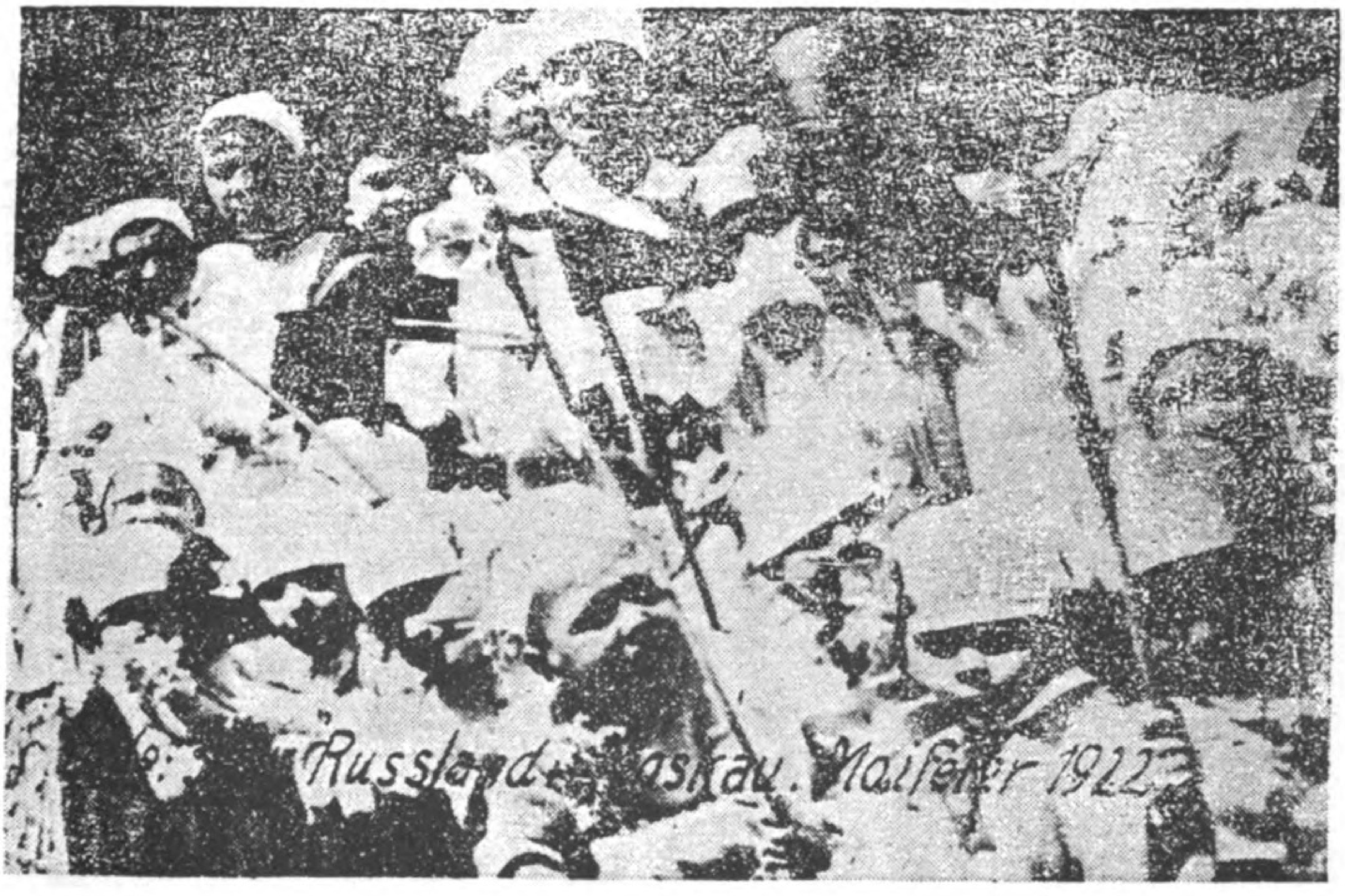
凡そ、近きより遠きに及ぶのは物事の順序である。暴虐なる軍閥の爲め、悲慘にも幾多の血を流した去二月のお隣支那の鐵道罷業に對して、日本のプロレタリアットは同志として、同胞として、果してどれだけの聲援と積極的方策とに出でたか。

それのみではない。

日本のプロレタリア諸君！諸君は諸君の不俱戴天の敵であつて、諸君とは到底兩立することの出來ない×××のブルジョアジーの毒牙の下に呻吟しつゝある被壓迫民族――朝鮮にしろその他にしろ――に對して何等かの政見をでも發表したことがあるのか。四箇年餘も惡戰苦鬪の下に血を流してゐる××××の解放運動に對して、一指の力でも添へたことがあるのか。諸君はマサカ朝鮮の××は大日本帝國々策上是非とも必要であるとは思ふまい。然らば朝鮮の××運動は民族的であつて階級的運動でない、とでも云ふのか。假初にも、諸君がさような考へを持つとすれば、それは云ふまでもなくタイヘンな謬想に陷つてゐるのだ。何故か。

現世に於ける被壓迫民族の解放運動は、最初、民族的敵愾より出發するにしても、遂ひには必然的に經濟的、階級的に發展せざるを得ない運命に置かれてゐる。そしてマルクスの終生の大勞作である資本論が資本主義そのものゝ解剖であつた如く、敵に勝たうとする執着が强ければ强い程、敵の正體を見極むるに忠實であるものである。

朝鮮の民族的運動に於ても敵の解剖を怠りはしなかつた。そしてその民族の絕對的多數である朝鮮のプロレタリアは、少くともその先鳴者は、今や敵の正體を見極めてゐる。彼等の眞の敵は『日本』ではなく、日本のブルジョアジーそのものでありそして資本主義を根本的に打亡



勞農露西亞のメーデー（五）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

さなくては、彼等の解放はあり得ないと云ふことを明かに意識してゐるのである。

日鮮両プロレタリアットは同一の×に當面し、また利害が全然合致する！。彼等――朝鮮のプロレタリアット――が日本の同志に、兄弟として期待するところ如何ばかり切なるものぞ。

日鮮両プロレタリアットの積極的協同は、彼等の解放の必須的要件であるばかりでなく、東亞の、乃至は全世界のプロレタリア解放の前提であることを特に記憶せねばならぬ。

此の事の意味が、メーデーに依つて一段明かにせられなければならぬ。

四度目のメーデー

佐々木茂子

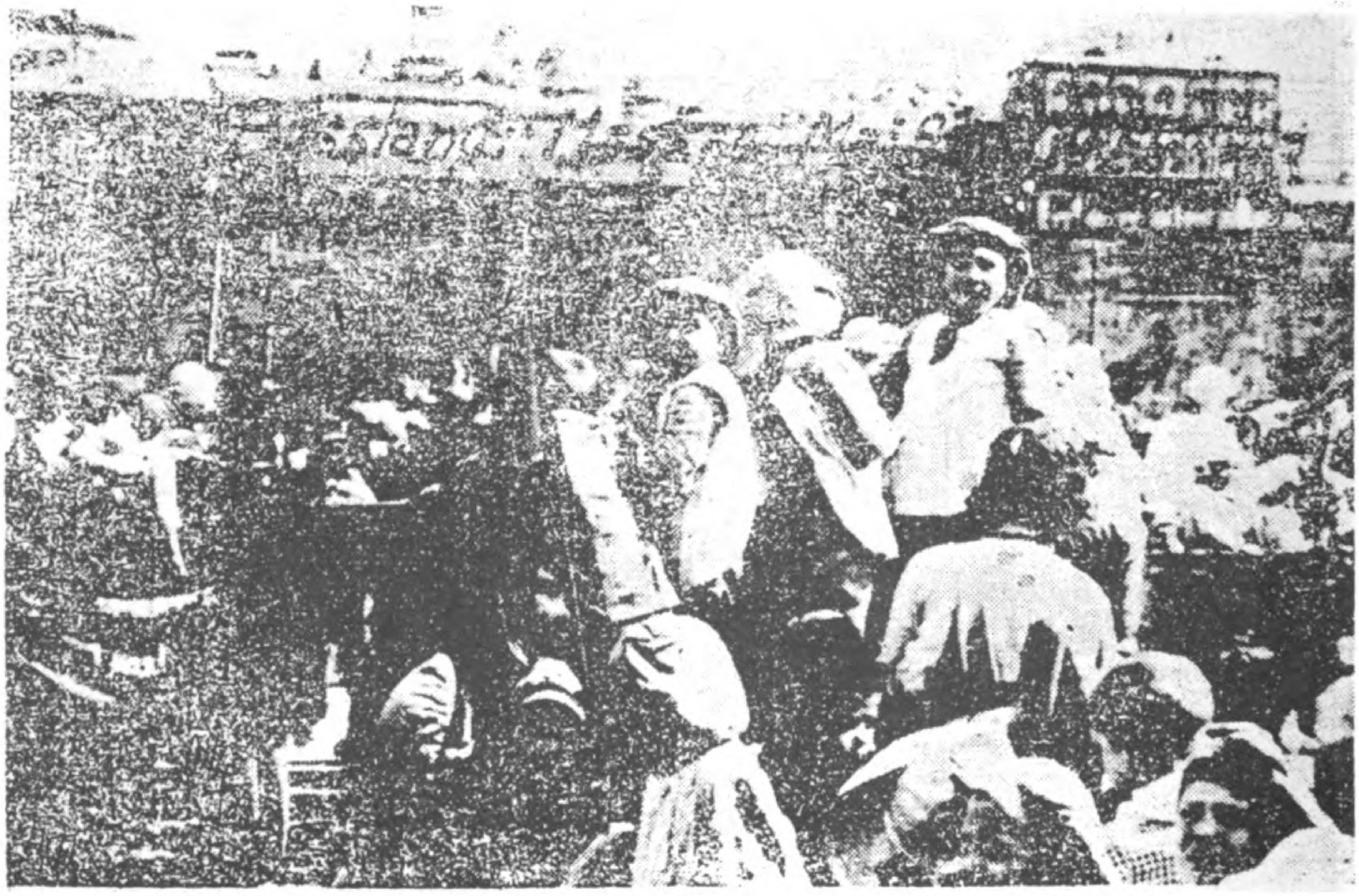
四度目のメーデーが近づいて來た。

去年は東京、横濱、大阪、神戸、岡山、足尾、高松等で行はれたが、今年はこの外に尚新らしく何處かの市や町で行はれることだらう。メーデーの示威運動に參加する團體や勞働者の數も、ずつと多くなる事だらう。

年々こうして全世界の無產階級の一致團結の象徵とも云ふべきメーデーが盛になるのを見るのは何と云ふ喜びだらう。

五月一日には、全ての勞働者が一せいに仕事を休む爲に、一枚の新聞紙も印刷されなければ電車、自働車の走る音もきかれない、工場の煙突から煙の出てゐるのは一つもないと云ふ樣になるのも遠い事ではあるまい。贅澤に遊び暮すブルジョア共の爲に、盆正月さへ休むことの出來ない勞働者逹が、彼等に自分等の威力を示し、彼等の最後がはや目前に迫つたことを知らせてやるのはこの日だ。

メーデーは吾等勞働者の日だ。メーデーが國祭日となり、凱歌を以つて祝される日が一日も早く來る樣にするのは吾等のつとめだ。年毎に階級意識が鮮明となり、年毎に團結力を增す勞働階級の勢力がメーデーに際して示されるのを、全世界のブルジ



勞農露西亞のメーデー（六）

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ヨアジーはさぞ恐れてゐることだらう。われ等は胸をおごらして今年のメーデーの成功を期待してゐる。

メーデーと屋外示威

高津正道

　無產階級解放の運動は、全無產階級の大衆的運動とならないでは成功し得ないものである。そしてこの大衆的運動の最良の武器は、何と言つても屋外示威運動であらう。民衆の意志表示が示威運動の形式を取り來る時それは當るべからざる威力を生ずる。官憲が殊更に屋外示威運動を嫌つて容易に許可しないのも、實にこの威力の偉大なるがためである。

　ストライキに戰術がある如く示威運動にも戰術がある。この屋外示威運動に關しては、吾々は平素から充分に研究して置くところがなくてはならないこの有力なる武器は如何なる場合に使用すべきか、如何なる場所を選定すべきか如何なる方法を以て參加者を多くすべきか、官憲の許可せざる場合及び中途にて解散を命ぜられた場合の處置如何、對警官線の術策は如何、雨天の場合如何、その他標語の選定行列の編制等、屋外示威運動に關して注意を要する問題は非常に多い。無產階級は、メーデーに際して、その最も好む屋外示威運動を行ふ。

　メーデーは、全世界の無產階級が、その當面の目標たる無產階級の獨裁の時代に達するまで年々定期的に資本家階級とその委員會たる政府とに向つて試みる機動演習である。メーデーは歐米各國に於いては、前世紀以來無產階級の國際的祝祭日であつて、この日無產階級の鬪士は業を休んで一大示威運動を行ひ來つたが、無產階級運動の最も後れて發達した我が國に於いては、大正九年に至つて漸やくその第一回のメーデーの運動を見た。我が國のメーデーは、その平時の運動が急速に發達せるが如くに急速に發達した。我が國の無階產級も、その第一回のメ

勞農露西亞のメーデー（七）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

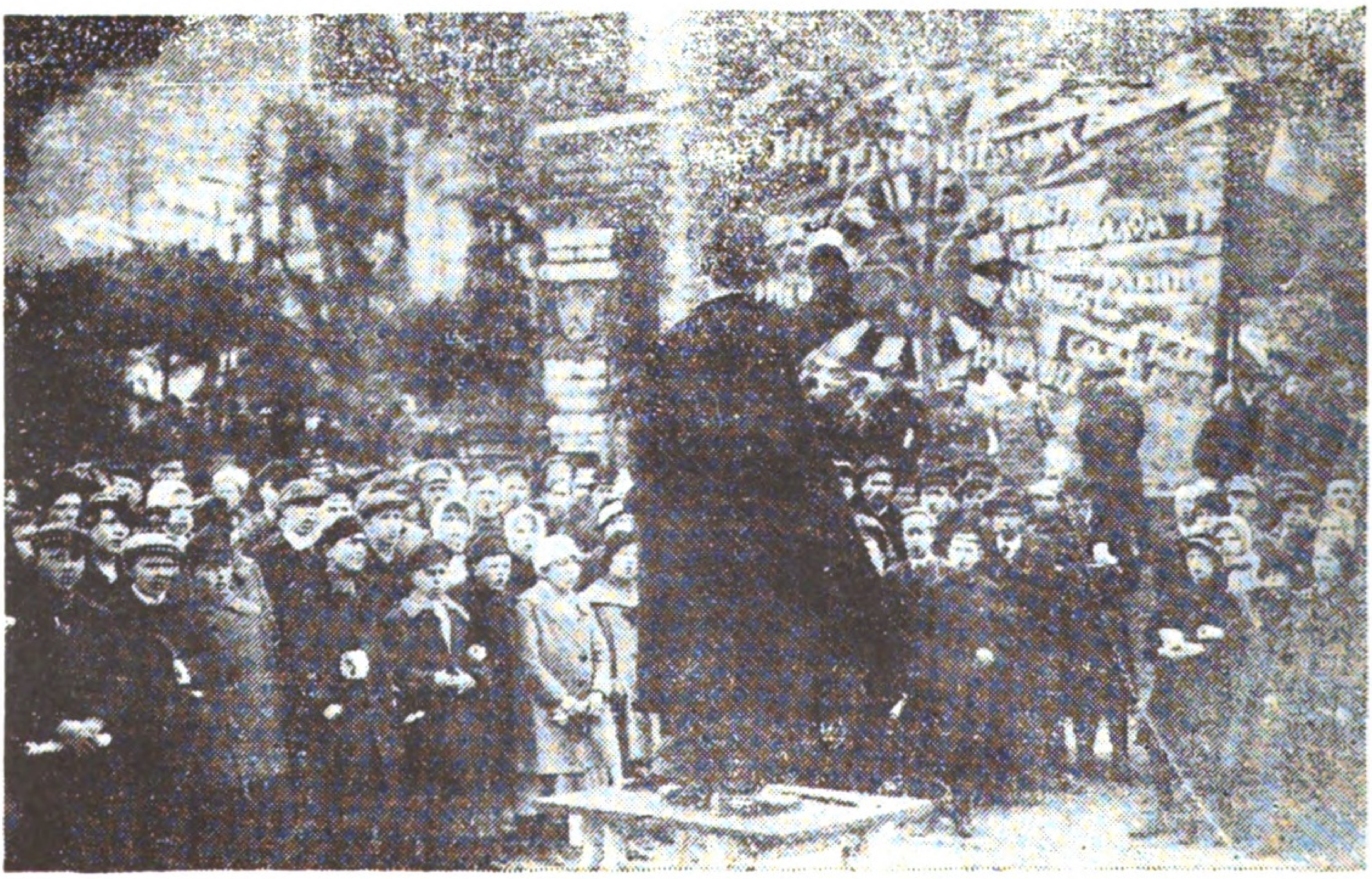
ーデーから屋外示威運動を擧行した。

　吾々は、本年のメーデーにもこの屋外示威運動を行はねばならない。屋外示威運動が行へなくて演說會のみを開く地方にあつては、その聽衆の流れを力めて示威運動に導く必要がある。たとひその行進が一間にして沮まれやうとも、この必要を大衆に理解させなければならない。

　屋外示威運動の第一の要諦はその參加者を能ふ限り多からしめることである。團體運動に於いては、量的の增加は往々にして質的の退化が意味するが、示威運動に於いては必ずしもさうではない。メーデーが工場勞働者のみのものでなく、全無產階級の國際的大祝祭日である限り、その示威運動は、農民、自由勞働者、下級俸給生活者、學生、外人無產者、その他現在の社會制度に反逆するあらゆる分子を吸收しなければならない。彼等をもこの示威行列中に加へて、階級意識の何たるかを愈々體得させ、且つ示威運動の訓練を施さなければならない。

　大衆を動かす一の要諦は、このために多くの時間を充てることである。換言すれば、準備を早くから開始することである。大衆は、ヤレソレとは動かない。メーデーが無產階級運動の年中行事であつても、この注意は絕對的に必要である。殊に今年の東京のメーデーの準備は、三月の失業者運動のために大いに妨げられた。吾々は殘れる二十日間に於いて、最善を盡して大衆にメーデーの意義を宣傳して、一人でも多くの參加者を造り、この屋外示威運動をして意義あらしめなければならない。

　北原君は、メーデーの運動を最も有力に發展せしむるために、この運動の全國的組織化の必要を高調し、その實現手段としてすべての勞働團體、思想團體より委員を送りて、メーデー委員會とでも名くべき機關を造るべきを提唱されてゐる。僕は、君の何時もながらの炯眼なる着想に感服し、この提唱に贊成を表する者の一人である。たとひ種々の理由に依り、本年に於いて未だ實行不可能であるとするも將來必らずこの企てを實現しなければならない。將來勞働組合



勞農露西亞のメーデー（八）

小作人組合が全國的に整理されて聯合又は合同し、社會運動團體が勞農黨又は社會黨内の左翼派として發達するが如きことあらば、その聯合主催にて擧行せらるべきメーデー大示威運動の盛觀は、蓋し想像を越ゆるものがあらう。メーデーは、無產階級運動のバロメーターであるとの説は正しい。本年には自らに本年の限度があらう。然かも全國に散在する吾々の同志が、餘す二十日間に於いて精力的に活動するとしないとは、メーデーの示威運動に影響するところが甚だ多い。全國の同志諸君・吾々はあらゆる方法を以て無産大衆にメーデーの意義を宣傳しやうではないか。

メーデーと失業問題

横田千元

我々は今勞働階級を脅威する失業問題に當面して居る。工塲法の適用を受くる勞働者の中既に三十萬の失業者を出した。其他半失業の狀態に在る者を合すれば優に其數は八十萬に上る。失業は資本主義生產の必然的結果である。勞働者は勞働を欲しないから失業するのではなくて商品經濟と私有財產を基調とする資本主義生產そのものゝ必然的成果である。資本家は利益の爲めに市塲を目的として生產を行ふ。從つて一朝利益のなくなつた塲合、其生產を中止し或は差控へると言ふ事は當然あり得べき事である。市塲を目的として生產せられる商品は出來得る限り安く賣らなければ市塲に於ける競爭に打ち勝つ、即ち市塲を獨占する事は出來ぬ。安い商品を製る爲めには生產費を低下する必要を生じ、生產費を低下する爲めには安い賃銀を支拂ふか、或は勞働節約の機械を使用する事が必要である。此塲合勞働者は或は其の賃銀をして僅かに其の勞働力を支持し得る點に迄低下せられるか或は失業するかである。資本家は一切の生產手段を獨占して居る。神聖不可侵なる私有財產制の爲めに彼は

勞農露西亞のメーデー（九）

安全に是れを所有し且つ勞働の成果をも私有する。勞働者は賣る可き勞働力の外には何ものをも持たぬ。彼等は賃銀に依つて勞働力を賣る。彼等は自分獨りでは生きて行く事が出來ぬから必然的に資本家に傭はれて働らかねばならぬ。彼等が働らいて出來上つたものは資本家が私有して其中のホンの一部を賃銀として支拂つて呉れる。從つて勞働者の生活と言ふものは、仕事のある塲合と雖、資本家の考へ一つでは、何時追拂はれて失業しパンに脅かされるかも知れぬ不安な生活である。勞働者は生きて行く爲めには屈辱的な條件をも甘受しなければならぬ。資本家が商品市塲の爲めに競爭すると同時に、勞働者は勞働市塲の爲めに兄弟と競爭する。資本家は又其處をつけ込んで最低度の賃銀を支拂ふ。マルクスが呼んで産業豫備軍と稱した失業者の存在と增大とは、資本主義生産には避く可らざる、缺く可からざる條件である。

失業問題は勞働者の責任では無い。其れはブルジョアジーと其政府との責任である。勞働者は彼等に其解決を迫る權利がある。勞働者は彼等に次の如き二つの原則を要求せよ。

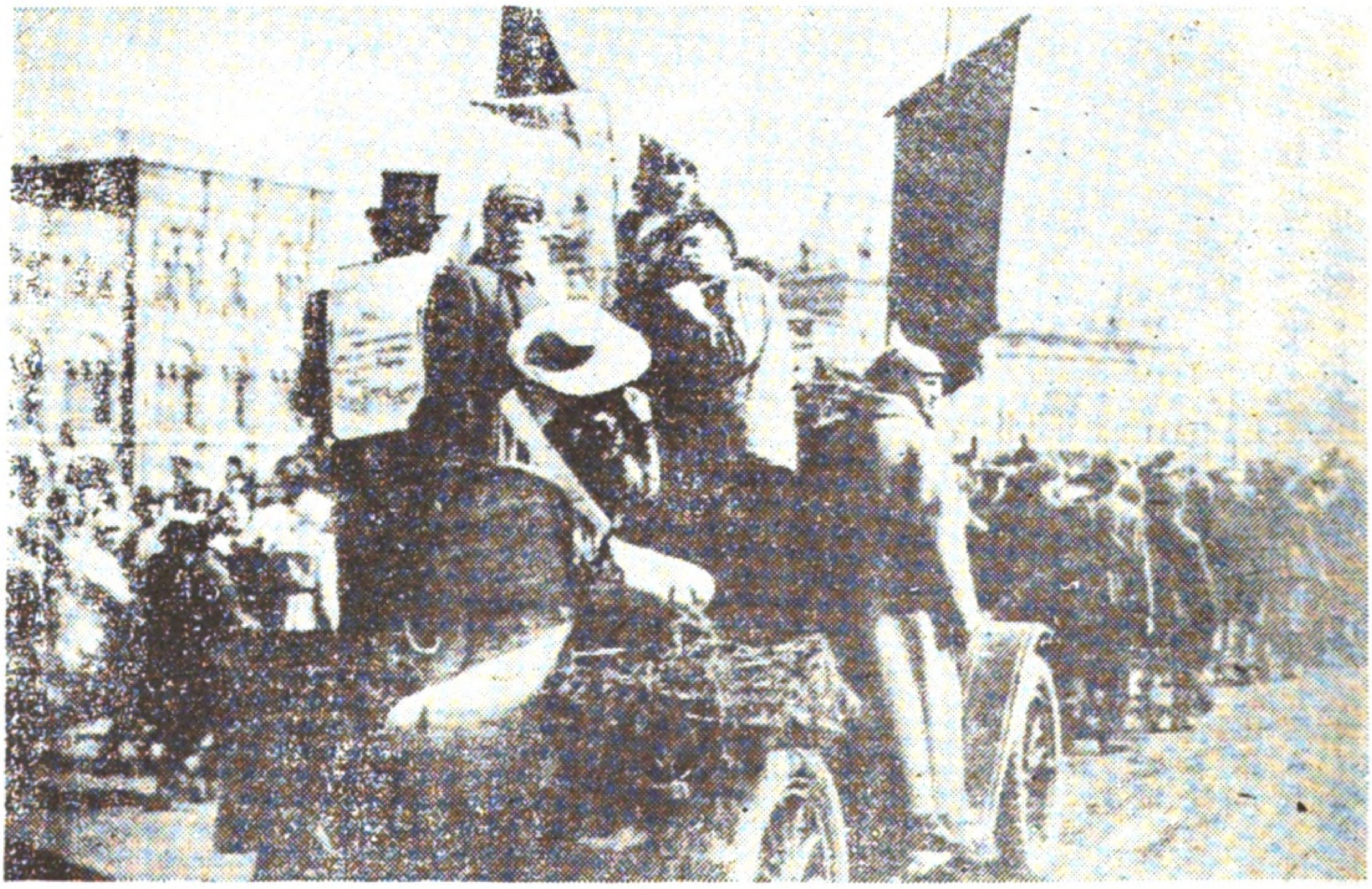
一、生活の保證。

二、仕事の給與。

先づ第一に、生活の保證と言ふ原則の下では、最低賃銀の確立を要求しなければならぬ。其他産業上の利益を割いて失業者の生活保證に充てる事も出來る。勞働者は勞働する權利があるのだ。其れに對しては又生活の保證を受ける權利がある。勞働者の生活を保證する爲めには政府は軍縮に依る剩餘金を以つて其の財源に供す可きである。其他失業保險も此原則の下に置かるべきものであるが、其れは資本家なり、政府が掛金をなすべきもので、勞働者の負擔としては酷である。

次に仕事の給與に關して言へば、八時間勞働制の實施及び對露通商等は此の原則の下に置かる可きものである。即ち無制限なる搾取から勞働者を救つて八時間制を敷く事は、より以上の勞働者を雇入れる必要を生ずる事を意味する。但八時間制は最低賃銀の

—(二十四頁に續く)—



勞農露西亞のメーデー（十）

記憶を辿つて

―初期の屋外運動―

岡千代彦

一、回顧

薰風が吹いて柳の芽が出ると何時も上野の山に同志が示威運動をした事を思ひ出す、殊に二六新聞社主催の勞働者觀櫻會の時には勞働者の團體が、草鞋穿きの輕裝で黎明から續々として繰込んで行く、會場には數ヶ所に篝火を焚いて櫻花と共に霞を染めた向島、旦の景色は何とも言へなかつた。

お花見と云へば、江戸の名物で、老若男女共に狂喜するので此季を利用して各工場等に於て觀櫻會や、汐干狩を催するのであつた、此催しには勞働者の示威と云ふ意味は少しもなく、寧ろ勞働者を利用して自家廣告の道具に使つたものである、夫れも日露戰爭を一期としてお花見は頽れてしまつた、けれども二六新報社主催の觀櫻會には勞働者の示威と云ふ意味が充分に含まれて居た、否な夫れが目的であつたのは、我黨の先輩たる片山潜氏が黒幕で各勞働團體に交渉し、各團體も其の趣旨を了解して參加することゝなり、氣勢は俄かに昂つて、當日參會の申込は無慮參萬人と云ふ大衆であつた。

二六社觀櫻會に參加したる活版工誠友會の有志

誠友會は活版工組合の後を次ぎ其後ち歐友會生まる。夫れより信友會となる。

二、觀櫻會當日の光景

當局は其勢ひに恐怖して、俄かに干渉して來會者の人數を制限した、其の理由が面白い、勞働者四人に對して巡査一人の割合で取締らねばならぬが、貳千人より巡査がないから、八千人を限度とし、酒類は一切與へてはならぬと云ふ事であつた、二六社始めの計畫では、酒辨當を出した上に豚追ひや、數々の餘興を催して、一日を悠くりと觀櫻せしめると云ふ趣向であつたが、事齟齬した爲めに、福田和五郎君が開會の趣旨として『我々は唯だ力を示せば、それでよろしいのである』と云ふ短かい演說をした丈けで至つて殺風景であつた、其上に吉原のゴロツキ連が、自由廢業煽動の復讐として暴込み會場は全くの落花狼藉で、折角の觀櫻會も遂に失敗に終つてしまつたのは誠に遺憾であつた。

三、觀櫻會禁止と反對運動

警視廳には豫定の口實が出來た、翌年二六社が再會を出願したけれども、勞働者の觀櫻會は一切罷りならぬと、頑として聞届けない、二六社始め有志は憤慨して、其不法を輿論に訴ふべく、演說會を神田錦輝館に開いた、其時には鳩山和夫君なども片山君の同窓者として應援し、徳川百ヶ條の中にさへ、勞働者に花を見せてはならぬと云ふ條文はなかつたと攻擊した、片山君は觀櫻會が出來ねば、我國勞働問題の先覺者たる佐久間貞一君の墓を谷中に弔はふと云ふ計畫を建てられた事もあつたが勞働者の示威的集會は絶對に許可しなかつた爲めに種々な計畫も水泡に歸してしまつた。

四、平民壯の觀楓會

卅九年の十一月三日と思ふ。平民社が卒先して園遊會を瀧の川の紅葉寺に開く事にした、當日は餘興として木下尙江君の著「火の柱」秩父山中の場を脚色して上場する事とし、僕の篠田長二、大亦楠太郎の權作と老母、小口みつ子の梅子、原霞外の義太夫の出語りと云ふ役割、稽古も出來、萬事都合よく進捗し、我々は其前夜西川光二郎君と共に瀧の川へ先發した、其處には既に警官が待ち構へて居て、我々を板橋署に引致して禁止する旨を達した、モー時は夜の十二時を過ぎて居る爲め警察に宿屋を周旋させて漸く一泊した、翌朝會場整理の爲めに瀧の川に赴けば、王子停車場には早や百數十名の同志が詰掛け、其不法に憤慨したが、平民社に引上げて其處で氣焰を擧げ僅かに鬱憤を慰めた、斯して我等の反逆思想は次第に釀成せられたのであつた

五、我等の勞働祭

翌年四月三日が來た、此日を期して觀櫻を兼ねて、上野に示威的集會を催さんと、五六十名の同志は、赤旗を振り、太鼓を敲いて早朝より上野に向つたが集會は禁止され、我々數十名は下谷署の擊劍道場に檢束された、浪花節を語る、落語をやる演說をやる、デッカンショを唄ふ、平民社よりは菓子やパンの差入れがあつて、觀櫻會よりは寧ろ平和に樂しく一日を賑かに過した、之れが吉例となつて翌年も其翌年も四月三日には赤旗を樹て、太鼓を鳴して上野に繰込んだが之又檢束された、されど我々は機會さへあれば必ず示威と宣傳は怠らなかつた。

六、由緒ある太鼓

我々の集會には必らず、先づ一個の樂隊用の大太鼓が飛び出すのであつた、演說會があればビラ撒の時には之れが鳴り、集會があれば合唱の時に之れが響いて氣勢を添えた我黨唯一の武器であつた、此の由緒ある太鼓も電車事件の時に押收されてから姿を見る事が出來なくなつた若し廢鼓の皮が時に藥餌となるならば、之を煎じて口先ばかりの同志に飮しめたいと思ふたに今はそれが無いのは誠に惜しい事である。

兇徒嘯衆事件出獄紀念

向つて右より前列堺利彦、樋口傳、深尾韶、吉川守邦、山口孤劍、岡千代彦、
中央幸徳秋水、後列半田一郎、竹内余所次郎、大杉榮、西川光二郎、齋藤兼二郎、
（但し堺、幸德は入獄せず）

七、電車値上げ事件

電車賃の値上げに反對する爲め日比谷に市民大會を開いた、其結果兇徒嘯衆罪として同志十名が捕縛せられ、公判の結果一二審共無罪であつたけれども、檢事が法の威信の爲めに控訴して二ケ年の後ちとう／＼有罪となつた。我々は裁判と云ふものは、取扱無盡の鬮を引くやうなものと思ふて千葉に下獄した、殊に特筆したいのは我々に改悔遷善を說いた、敎誨師が四人から賄賂を取つたなどは誠に面白い事實だと思ふた、其後赤旗事件、大逆事件が起つて、一網打盡となり、社會主義者は六親眷族まで根絕せんと羅職したので我々の示威運動は暫らく杜絕したが、機運は茲に廻轉して、我國に於ても勞働祭の意義が知れ渡り、世界の勞働者諸君と俱に五月一日を期して祝福するのは誠に喜ばしいとである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

無産階級政治運動の研究(二)

政治的威力の三つの要素

北原龍雄

一

こゝでは、革命前の事に就てのみ考へる。革命が行はれた後に於ては、餘程意味を更へて來るが、革命前に於ける、プロレタリアの政治的威力と言へば、國家權力に對するプロレタリアの批判力を意味する。即ち、プロレタリアの階級的意志が、國家權力の發動内容を、多かれ少なかれ支配し得る力を意味するのである。一つの法律の制定、廢止等より××××に到るまで、すべて政治的威力の作用である。

此の意味に於ける政治的威力が成立するに必要なる因素は、大體三つの部分から成つてゐると思ふ。

二

その一つは、大衆の思想内容である。大衆が、先づ謂ふ所の階級意識を抱き、次に政治的行程に依つて自階級の欲望を充足しなければならぬとの斷定を抱く事である。此の二つの考へが大衆の理智にも情意にも喰ひ入る時、階級的政治運動の思想上の準備が成り立つ。

如何なる場合にも、プロレタリア階級が階級としての運動は無産民一人々々の個人的なる欲望がそのまゝ集合したものではない。個人々々が自己の活きてゐる社會的條件を考へ、そこに階級と言ふ特殊の社會現象が、自己の生活を包容してゐる事を豫見し、自分の社會生活上の運動は、すべて自分の屬する階級に立脚してやらなければならぬ事を確信するやうになつて、始めて階級意識が成立するのであるが、こゝまで來るには、相當に思想上の努力を通過してゐる。そうして、階級意識に基く諸運動、即ち對抗階級との闘爭が政治的なる方法に依つて行はれなければならぬ事を確信するまでに、此の社會の諸々の實情を考へた時、始めて、プロレタリア階級の政治的威力の、思想的要素が出來上る。

三

第二には、大衆の政治的結合である。

人間のすべての結合には、それ〴〵の異なる機能が含まれて居る。例へば山岳クラブと言ふ結合は山登りが面白く出來るやうな機能を持つてゐるし、消費組合と言ふ結合には、商品を安く買う事の出來る機能が含まれてゐる。

一體、社會結合と機能とは、極めて深き關係を持つてゐるものであるが、殊に、人間の意識的努力に依つて、新しき社會を作り出ださうと言ふ場合には、主としてその作らるべき社會の機能が問題となる。即ち、それ〴〵の機能を果す爲めに、最も適切なる結合は如何にして作らるべきかと言ふ點が、その結合を作る上に最も重大な問題である。此の事に依つて、その結合の價値は決定せらるゝ。

そこで、大衆が政治運動を望む場合、政治運動の遂行を機能とする結合が生れなければならぬ事は言ふまでもない。之が大衆の政治的結合である。

政黨と言ふ名稱には、種々の不愉快な聯想が伴ふ。併し政治的結合は政黨に違ひない。かく解すれば、つまり第二の問題は政黨を構成する事に他ならぬ。

四

第三は、政治的批評若しくは政治的指導と言ふ可き仕事である。此の點に關して、私は特に人間の専門的能力を高調しなければならぬ。

社會の發達は、すべての方面に於ける個人の特質を益々高度に發揮せしむる。人々の智識や機能には益々多くの異種を生じ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

一人々々の知る範圍は益々狹く且つ深くなる。此の傾向から、人と人とが相互指導しあふやうな關係の高まつてくる事となるは必然である。一例として、醫術を見るに、それが進歩すればする程、その專門家たる醫師と一般人との距離は遠くなり、醫師の指導性は高まつて來る。されど、此の醫師は機械工業の前には單なる一般人である。簡單なる機械も、その製作に與かつた專門技術者の、直接若しくは間接の指導を受けて使用して居る。このやうな關係は、すべての人の上に働き、人々は網の如き指導と被指導との相互關係の下に生活しつゝある。これを、社會の異質的有機化と呼ぶ事も出來るであらう。

プロレタリアの政治運動の上にも、亦此の關係は働かざるを得ない。

即ち、プロレタリアの政黨が生れ出でたとして、その組織の內容、活動の樣式、目標の選擇、等、政黨に取つての重大なる題目は甚だ多いであらうが、それ等の考案、決定等は、政黨の構成者自身以外に、專門的なる擔任者の存在する事が妥當でなければならぬ。こゝに指導的なる仕事の分化が考へられ、それに應ずる機關の存在が考へられるのである。

五

こゝに言ふ要因の、第一の部分と第二の部分とは、何人も始めから肯定するであらうが、第三の部分はなほ幾つかの疑問を投げられるであらう。

大衆の運動は、大衆自身の體驗に基づくとの考へが、一般に抱かれてゐる。それに依れば、大衆が自己以外の指導は受けるを要しない事となる。

併しながら、大衆の體驗を綜合し分析する所に、新なる理論が生み出される。それはすべての現象の記錄と科學との間に見るが如き關係である。大衆の日常生活の體驗は、素より一切の理論の根底であらう。併しながら、それは體驗そのものでは無い事は、科學が經驗の記述そのものでは無いと同樣である。

此の、政治行動上の所謂指導の役目を果す機關は、個人でなくて組織でなければならぬ。如何に偉大なる天才と雖も、それが個人である限り、人間に普遍せる弱點を抱く。人々の、すべての專門的なる最高能力のみを發揮せしむるものは、人々の能力を、その人自體から抽出し、遊離せしめるやうな組織の力である。かゝる組織の內容が、何であるかは別として、指導能力の支持者が個人ではない所に、所謂英雄主義の危險から遠ざかる事が出來る。

二つの研究主題

政治運動研究の、次號の主題としてたの二つの項目を選ぶ。

一、プロレタリア政治運動は農村と都會と何れが先きに發展するか。

二、プロレタリア政治運動の全面の中、議會行動はどの程度までの重要さを占めるか。

讀者諸氏からも所見を寄せていたゞきたい。締切、五月十日。

又、これ等の指導樣式は、單に言葉文章等の意志表示にのみ依るのではない。實際行爲に依る暗示なども、重要なものゝ一つである。例へば、全政黨が或る行動を起さなければならぬやうな場合、此の機關が先づ起ち上つて、強烈なる刺戟を加え、所謂導火線の役目を演ずるが如き場合がそれである。

此の點より見る時は、指導機關は政黨の內部に含まるゝと、外部に獨立するとの優劣が容易に定め難い。こゝにも一つの研究題目がある。

その他、指導機關に關しては幾つかの問題が殘されるのであるが、こゝではたゞ、かゝる仕事とそれを引受ける可き機關とが存在しなければならぬ事だけを言ふに止めて置く。

六

上述の如く、私はプロレタリアの政治的威力は三つの要因から成り立つ事を信ずる。此の三つが完成して、始めてプロレタリアは有効なる政治的行動に進み入る事が出來るのである。

此の點から見て、我々の從事すべき當面の政治運動も亦、三つの部分から成立つと考へられる。即ち、第一が思想宣傳の運動であり、第二が結合促進の運動であり、第三は特殊機關構成の運動である。是等の諸部分に對する研究こそ、我々の最も重要な仕事である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

特權政治への積極的對抗

朱鐘健

一

プロレタリアのブルジョアに對する鬪爭は搾取の事實と共に發生する勞働の果實を直接生産者にあらざるものが掠奪する事實が存する以上は農業であらうが工業であらうがその部門に關係なく軋轢と、對抗とが始まる。個々の地主に對する個々の小作人個々の雇主に對する個々の勞働者の間に於て。そしてそれが漸次擴大されて一地方的に、また、一工場的に、利害を同じくするものが共同して、行動を共にする樣になる。が彼等の要求は、地主に取り上げらるゝ小作料を輕減してもらうとか、賃銀を增しまたは勞働時間を短縮してもらうとか、單に經濟的範圍に止まるものであつてそれ以上の目的を有するものでない。中世に於ける百姓一揆の多くの如きそれである。

資本主義的産業はその生産力と共にプロレタリアの發達を來した。その數を增加する許りでなく益々大なる集團に集中してしまつたのである。そしてブルジョアの發達の必然の結果として現はれる交通機關の發達、報道機關の整備は地方的に散在せるプロレタリアの連結の助けとなり、また彼等(プロレタリア)の鬪爭より得た經驗は新しい戰術を生む樣になつた。彼等は團結の必要を痛切に感じあらゆる壓迫に反抗して組合を作つた。

斯くしてブルジョアに對するプロレタリアの對抗は、その範圍に於てもその根氣に於ても益々宏大になり、その對立が、對抗が、一ツの『階級』として行はれる樣になつたのである。がその對抗の目的が、賃銀の增加とか、勞働時間の短縮とか、工場の監視權の獲得とか、將又小作料の輕減とか、小作權の確立とか、一言に盡せば『狀態の改善』にある間は、それは單なる經濟的鬪爭である。即ちマルクスの『プロレタリアが自ら階級を構成する程に充分發達せず、從てプロレタリアとブルジョアとの鬪爭が尙は未だ政治的性質を帶びない間』の鬪爭がこれである。

ところが、經濟的鬪爭の發展に連れて、プロレタリアは階級的に自覺する。即ちプロレタリアとブルジョアとは到底調和し得ないものであつて絕對に兩立することの出來ないものであること、ブルジョアを根底から顚覆するにあらざる限り彼等――プロレタリアの解放は全然望みなきこと、そしてまたブルジョアのよつてもつて立つところは社會の制度そのものでありブルジョアを倒すには先づ以て制度そのものを根本的に改革しなければならないこと、一言を以て蔽へば社會革命の必要を觀念する樣になる。こゝに於ては『狀態の改善』の如き當面の鬪爭は一ツの過程であり手段であつて究極の目的ではない。そしてこの階段に於ける鬪爭は經濟的鬪爭であると同時に政治的鬪爭である。マルクスの『一切の階級鬪爭は政治的鬪爭である』と云ふのがこれに屬するのだ。

二

プロレタリアの階級的發達は階級的自覺を促し、階級的自覺は遂に政治的に發展せざるを得ない。と云ふのは、ブルジョアの經濟的搾取は彼等の政治的支配によつて完成せられ、プロレタリアの解放も亦政治的過程を通じてゞなければ行はれ得ないからである。政治は要するに社會の經濟的構造を基礎として作り上げる上層建築に過ぎない。が一度築き上げられた後にはその社會の經濟的秩序を支配し、それによつて建つところの基礎を擁護する特殊の機能を持つものである。そして現代政治はブルジョア政治なのだ。彼等は合法の看板の下に政治的權力を經濟的搾取に使用することを躊躇するものでない。彼等の存在を脅す運動と見るや過激社會運動取締法と云ふ巨砲を、少々不利と感ずるや小作爭議調停法と云ふ短銃を、以て自己保護に餘念なしではないか。要するに政權は彼等ブルジョアの要塞である革命的プロレタリアの攻擊が敵の要塞に集中されるのは當然

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なことだ。敵の牙城を乗り取り敵が常用してた武器、即ち政權を掌握してから『收奪者の收奪』を行ふのでなければプロレタリアの徹底的勝利は望まれるものでない。階級的に自覺し、終局の勝利を目標とするプロレタリアが政治的に發展するのは當然でもあり、またそうならなければならぬものである。

三

プロレタリアの政治運動とは要するに政治的權力をプロレタリアの手に收めようとする運動に外ならない。換言すれば、一切の政權を握り以てプロレタリア獨裁政治を行はうとする運動なのだ。故にこの『プロレタリア獨裁』を究極の目的とする以上、それは如何なる形式を以て行はれるにしても皆政治運動と云つてよい。當今問題になつてる失業者の救濟運動の如きもその終局の目的が『救濟』に止まるとすれば要求の客體が工場主であらうと政府であらうと、それは一ツの經濟的運動である。がその要求する『救濟』が單に過程であつて、より一段進んだ目標に達する爲めの手段であるとすればそれは即ち政治的運動なのである。

革命的プロレタリアの政治運動の要點は唯ブルジョアの政治に對する積極的對抗にある。故にそれはブルジョア政治の進化的改善を目的としてはならない言ひ換れば、ブルジョア政治の土臺に立脚して合法的優勢を以て勝利を博しようとするものであつてはならない。と云ふのはそうすることは即ち議會政策主義への陥落であり、プロレタリアノ去勢策であつて、結局はブルジョアに利用さるゝに止まるべきであるからだ。從てプロレタリアの政治運動はブルジョア政治の積極的否認であり、それが破壞を以て目的としなければならない。

そうする以上は運動の部面や形式は大した問題とならない。その部面を議會内に選ばうと議會外に選ばうと、また運動の舞臺を議會に採る場合に於ても投票によつて議員の選出に出るか棄權を以てボイコットに出るかそれは單に戰術の問題に過ぎない。時と場合とによつて機宜に最も有効と認めらるゝ方法をとるまでのことだ。

四

プロレタリアの地位境遇、一言にいへば、その『存在』は決して一樣でない。こゝは云ふまでもないが、その『存在』の相異は意識に反映するものである。

日本のプロレタリアの中心に階級的に自覺したものが果してどれだけの部分であらうか、昨年の總聯合大會に參加した三萬の組合勞働者は、全體から見て覺醒した部分として差支なからう。が農村は暫く論外に置くも尚ほその外に百五十萬の工場勞働者がある、と思へばその數は實に微々たるものである。そしてまた、その三萬の組合勞働者は悉く眞に階級的に自覺してるのだらうか。何と云つても『自覺』したプロレタリアの數は未だ少數であることは否定し得られない事實であらう。

そこで、今まで日本のプロレタリアが政治を顧みなかつたと云ふことは、サンヂカリズムの指導的原理の影響よりもその反面の政治的に發展すべくその――プロレタリア――發達が餘りに幼稚であつたと云ふことを、又消極的否認の効果を信ずる先覺者たちの意識的行動の結果だと云ふよりも却てプロレタリアの大多數が政治に全然無頓着であつたと云ふことを、意味するのではあるまいか。何れにしても當面の運動としてのプロレタリアの政治的行動は先驅者の領分に屬することであらう。

然らば、先驅者の第一着として力を注がなければならぬことは何であらうか。未だ自覺の道程にある大衆に政治的思想を、モット詳しく云へば社會××の避くべからざることゝ、それは亦プロレタリアの××政治を通してゝなければならないことを宣傳し、以つてその覺醒を起すことでなければならない。それは精神的に未だブルジョアの羈絆を脱し得ない大衆をして革命的水準にまで引上げる必要からまた、政治の全局面を自己の手中に收め切れないでゐる日本のブルジョアが無自覺な大衆を自己の爲めに利用する危險を防止する必要からである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

そして初期に於ける積極的對抗の直接の行動は寧ろ第二次的であつて、徹々たることも亦止むを得ないとせねばならぬ。假令、勞農露國の承認を標題として猛烈に運動を起すとするも、日本の現狀に於てはブルジョアと、幷に過去の遺物であるところの官僚の打算（多くは誤算であるが）に合はない内は、プロレタリアが如何に躍起になつても直接の効果は現はれないであらう。がそれによつて大衆の精神的覺醒の上に及ぼす影響は決して些少ではあるまい。そして又大衆は未だ政治的に自覺してゐない時に於て、その前衛であるところの先驅者が注意すべきことの一ツは『組織』であらねばならぬ。

『組織』は先づ階級的に自覺せる先驅者を以て爲すべきであるそれは、その自覺せる少數を一定の綱領の下に、益々統一し尙ほ一層結束して、一方に於ては敵に對する鬪爭力を集中し以て益々有効ならしめ、また一方に於ては遙か後方に取り殘されてる大衆を教導し以て革命的水準にまでに引上げる能率を一層高からしめむが爲めである。われ〳〵はこの『組織』を政黨と云ふのだ。

政黨の領分は決して議會に限つたものではない。議會がプロレタリアの政治運動の重要なる一部面であることは勿論であるが、それと云つてその全局面でないことも亦明かであり、政黨の活動部面の主なる一部が議會であることは疑ひを入れる餘地のないことであるが、議會を對象としない政黨は全然意味を爲さないと云ふ、即ち議會あつて始めて政黨だと云ふ說には首肯し兼ねる。議會政治を以て極致とするブルジョアの政治學敎科書にはなるほどそう書いてもあよう。がわれ〳〵は一定の綱領を持ち、積極的に政治的行動を爲すことを目的とする組織は、その活動の領分が議政壇上にあらうと議政壇外にあらうと、之を政黨と云つて差支ないと思ふ。そして又『綱領』もその全部を公開しなければならぬと云ふ鐵則もない筈だ。

何と云つても日本のプロレタリアの運動に於ける當面の必要は、この『組織』にありやしなからうか。

組織は如何にするか、の問題は殘こる。又普通選擧と對議會策も重要な題目であるが、何につけても『人』の問題であることを申添へてこゝにペンを擱くことにする。―三、一六―

何れにしても政黨の必要

高津正道

一、いかなる點から考へて見ても、無産階級の政黨の組織を見るに違ひない。

二、この政黨の組織は、無産階級の運動の發展上、極めて重大なる問題であるから、その組織の局に當らんとする人も、それを論評する人も、極めて愼重な態度でありたい。僕は滅多に愼重な態度を云云しないが、この問題に對してばかりは大いに愼重でありたいと思ふ。昨年の勞働組合の總聯合の決裂は、大會以前に相互の理解が不充分であつた點にも、その原因を求めることが出來る。政黨の組織は、總聯合の問題と匹敵すべき歷史的大問題であることは、何人も異論なき所であらう。

勞働組合の幹部中には、まだ政黨無用論の主張者が多い。小作人の幹部中には、政治運動に興味を有する者が多いが、それは議會政策の立場に立つものであることを注意する必要がある。されば現に政黨組織の急を痛感する人と雖も、この形勢に注意を拂ひ、他の自覺を待たず少數者のみにて政黨を組織するが如き行動に出てはならない。既成の勞働組合や小作人組合の外に、政黨の存在を必要とするは、一は前者が生產者としての部分的利害關係を代表するに反し、後者は全無產階級を包含し得る點にもある。

とにかく、火蓋を切る前の準備を充分にすることが何よりの必要であらう。右翼をどこまで抱擁すべきか、既成の組合との關係を如何にすべきか、綱領は如何にすべきか、問題は非常に多いが、それ等については、別の機會に論議しやう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

『適應の防止』が出來るなら

田所照明

一

政治運動の叫びは、刻下最大の叫びである。小數のアナキストが、如何に『黒く』なつても、こればかりは駄目らしい。政治運動の叫び！それはアナキズムの優勢を意味し、消極的政治否認から積極的政治否認（政治的對抗）への進展を意味する。

共産主義者は、原則上議會を否認する。であるから吾々の政治運動は、改良的、小ブルジョア的政治運動——議會主義ではない。吾々の所謂『政治運動』とは、組織された權力を、客體とする一切の運動である。で議會といふものは、その一小部分を占むるに過ぎない。議會運動に參加するといふも、それは單に吾々の一小政策に屬すべきものである。

二

共産主義の對議會運動は、その政策からである。政策は打算であり、功果論である。それに得る所のものと、失ふ所のものとの差引殘高によつて決定されねばならぬ。

大衆は普選を欲してゐる。共産主義者は大衆の要求とともにその中に入り、そこに共産主義を擴充せねばならぬ。それは論理上正しい、そしてたしかに得る所はあらう。しかし失ふ所はないか。そしてその何れが大きいであらふか。

私は失ふ方面の多くの理由を見る。しかしそれは既に多くの人の云ひつくした所だ。が私はその一つを特にこゝに擧げる。

それは、西歐諸國で事實の上に力強く立證された、所謂「墮落」てふ奴だ。しかし私は『墮落』といふのは、當らない、非科學的な詞で、それは寧ろ『適應』と稱すべきだと思ふ。利用するといふことは、利用されることである。多分に利用されてこそ、始めて利用の効果をあげることが出來る。小數が大衆の中に入つて効果を擧げんとすれば、多分にその周圍に適應しなければならぬ。普選を要求する大衆は、漸く、（しかもブルジョア政黨者流に鼓吹されて）普選まで上つて來た思想の持主だ。その大衆に入つて計畫的効果を上げんとすれば實に怖くべき適應を餘儀なくされるであらう。（適應しない範圍に於いて、効果が上がらない！）

共産主義者と對しても、しかく實際的思想は明確でない。しかもその間に完全な統制と規律がない。それ等の人々は、果して内心まで適應しないことを何人が保證する。

しかもそれ等の共産主義の一隊は、大衆に比して極めて小數である。この場合適應の能率は一層大でなければならぬ。内心までの適應！メンセヴイキ中毒！　それが論戰語の所謂『墮落』である。

三

しかしこの適應なくして、効果を上げ得る手段は一つある。それは厳格な規律と統制を有する共産黨の設立である。しかもそれは大衆を動かすに足るだけの數を有せねばならぬ。有力なる共産黨を設立して、それが大衆の中に觸手を入れて、締つてゐる範圍に於いて、適應の危險は殆どない。（獨、佛、米等は恐らくかうであらう。）

しかし日本の現狀はどうだ。共産主義者と稱するも、所々に小團體を作り、しかもその明確さを欠いたものが多い。これでは一體どうする？よしや作るとしても極めて少數である。殊に共産黨は都市勞働大衆の支持を受けねばならぬ。しかも勞働組合員は、三百萬の中二萬内外に過ぎない。しかも共産主義分子はその一切だ。これで何んとする。

日本の現在の共産主義者は要するに少數の群をして、普選の大衆の中に入らしむるは、羊群をかつて、雲霞の如き狼群に入らしむるもので、生還を殆ど期し難い。

大衆に接近するのが如何に必要であらふとも、ミイラとりがミイラになることが、あまりに明白な場合は、ミイラをとりに

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

入るわけにはいかぬ。

四

日和見主義の議會的政治運動の論點は、普選が實施されるまで、非議會主義的政治運動の教育をするといふにあるらしい。しかし私はこゝ二三年で、さても現在の數百位の共產主義者を作れないと考へるからして、此れは普選的政治運動と同樣に、唯一の理由からしても（その他に澤山あるが）反對する。

私は、現在に於いては反議會的政治運動を支持する。普選運動は勿論のこと、議會運動に參加せず、議會をボイコッドする。私は少くとも、現在はさう深く信じてゐる。

政治運動は政治的權力を客體とする運動だ。議會はその一部分だ。失業運動も、過法反對も、ロシア承認も、凡てが同じく政治運動である。同時に棄權運動も一種の政治運動である。

そして現在の政治運動の叫びは、アナキスト的な、無氣力な（口先きは景氣がいゝことをいふが）、消極的な政治否認の反動と、古い勞働組合主義の一步前進の結果であるが、此れを議會――底知れぬ川の泥濘――までに右傾せしめなくても充分であると考へる。議會をボイコットすると云つても、尙共產主義の哲理を忠實に守る所以である。

此議會否認に就て注意すべきは、消極的政治否認への逆轉する事である。しかしそれは議會外の政治運動、積極的棄權運動によつて免れ得る。

五

それからも一つ附加したいのは、私は常にこの問題を考へるときに、起る一つの感じ（偏見かも知れぬ）がある。それは都市勞働階級は農民に壓倒せられてゐるのではないかといふことだ。農村のことには沒交涉だから、よく知らぬが恐らく農村の爭議なるものは、社會主義的のものであるまい。非常に保守的な私有慾からの出發であらふ。そして農村の村會や郡會の占領も、プロレタリア政治運動といふよりは、むしろブルジョア的政治運動であらう。しかし農民の數は大である。この農民勢力が都市勞働階級を壓倒しつつある著しい證左は、この政治上の右傾論であらふと思はれる。殊に農民運動者が普選論者なのが目につく。（稲村怒るなよ！）

此の場合非常に殘念なのは、組織された都市勞働者の數の少いことだ。僅かに三萬！その故に壓倒され勝なのだと思ふ。

それもかなり悲觀する。しかし絕望しない。何故かといへば日本の組合は外國にくらべて、ある新聞記者が、日本は職別組合の上に赤色を盛ふとしてゐると稱したやうに――資本主義の早熟に對應して早熟であつたから、その體型は整つてゐないけれども、その數に比して比較的革命的である。その思想は、アナキズム乃至はサンジカリズムに培はれたものであつて、反議會的政治運動に於ては何等の支障を見ない。これが唯一の强味である。

此の革命的精神を、メンセヴキ的思想によつて、暗殺されない範圍に於いて、都市勞働階級は進路を見出す。組織なき勞働大衆を組織化し、これを革命化してゆく範圍に於いて、必ずしも農民の保守思想に壓倒されないであらう。

農民と工場勞働者、この二つを比較するとき、私は、來るべき革命は工場勞働者の革命であるといふ原則を思ひ出さざるを得ない。政策のために原則を殺されてはならぬ。都市勞働者は勞働大衆の組織化が最大急務である。そのために共產主義分子は全力を注がねばならぬ。

『政策のために原則を殺すな』と、つい叫びたい氣がする。

（第十五頁より續く）保證と併立しなければ無効である。軍縮の剩餘金を以つて新しき事業を起す事も出來る。又は此金を以つて失業者の生活保證に充てる事も出來る。又對露通商の開始に依つて、勞働者を吸收する事が出來る。對露通商の先決問題は勞農露西亞の承認である。其他公益的目的を有する事業設備に依て勞働者を吸收する事も出來る兎に角我々は今資本主義制度を震撼す可き失業問題に當面して居るのである。

起て同志、我等は此のメーデーに、失業問題を以つて敵壘に肉迫しやう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

前號のつゞき

反動運動に對する所信

□　猪俣津南雄氏

反動運動は、其の構成要素や標榜する處に差別はあつても、畢竟、反無産階級的權力の別働隊に過ぎず、從て本隊のする事は何でもすると見るべきだと思ひます。それで、平常の場合、彼等が絶對になし得ざることが唯だ一つある。それは、勞働大衆の經濟的部分的要求と並行して進むことです。社會運動の幼弱な日本では、反動運動も未だ過少數運動だから、當分は、彼等を相手にして無けなしの力を割くよりも、先づ彼等の到底進み得ざる方向へグン〳〵進むべきでせう。別働隊としての彼等の特殊職分は、非常な形勢下に於て勞働大衆を群集心理の盲動性に乘じ、政治的に拉致し去ることです。其の様な場合と雖、無産階級運動そのものが大きく且つ之れが確たる目標に向つて統一されて居れば、反動運動に乘ぜられないものだと思ひます。

□　伊井敬氏

反動運動に對することは、全々タクチツクの問題で、理論としては何も論ずる餘地のないものだと思ひます。そこでタクチツクについては、斯ふ云ふ、公開の紙上で公表することの甚だタクチツク的でないことを感じますから、確なるお答へは勘忍して下さい。

□　吉川世民氏

反動思想の者共が、言論文章の論爭では到底勝算なきを自認し近頃暴行に出づるは窮鼠猫を嚙むの類、寧ろ氣の毒の感に堪へぬ。

之に對して正面から堂々戰端を開らくは誠に痛快壯烈で有るが、ソレは策の得たもので無い、彼等はメンの爲か、若しくは無智の爲めで有るから、見て見ぬ振りをして、能く機を捉えて時には利用すべきで有る。

我々は如何なる場合にも忍んで宣傳すべきで有る、前者傷けば後者續き、右を押へれば左に出で、ドンナ太柱でも喰ひ盡くされば止まぬ白蟻の如き忍耐と根氣が最も必要で有る。

疲れては息ひ、息ひては又行く哀れなる無産者の革命は、長き準備を要する。一滴の雫一條の流れが、遂に汪洋たる大江となるに至るの間、實に非常の忍耐と根氣とを要するのである。

□　木村愛雄氏

プロレタリア運動は革命の可能性を有して居るから、それに對する運動者は『時と場合』と云ふことをよく見拔くことが必要と信ずる。

或る時は竊かに謀かつて時を待ち或る時は氣を大きく持つて彼等を利用することが必要と思ふ。（然し後者は稍々もすれば、反つて彼れ等の爲めに利用され安いから、そこの所を氣を附ければよい）

□　村雲好一氏

種々の反動運動の中で、特に最も注意を要することは、新に起りつゝある反動團體が、舊い政治組織を保守すると同時に、不明瞭ながらも、その經濟的要求が近代味を些かなりとも加へてゐることであります。例へば高島、上杉等の產業機關の私有の否定等でありますが、彼等が政治組織に對して保守的であり、經濟組織に對して一歩出樣とすればする程、終局は其處に大きな不盾を感ずるでありませうが、現在では、それが階級意識のないプロレタリア並に中間階級の大衆を鳩合し、それによりて政權奪取の行動に出でるに、吾々よりも都合のよい地位にあるだけ、吾々に取つて將來は危險性が多いと思ひます。

故にそれに對する對抗策としては、未だ具體的の方法とては考へてゐませんが、兎に角彼等のよりももつと深い根底を有する經濟的要求を掲げたプロレタリアの政治團體を組織して、單なる政治的訓練など、云ふ意味ではなく、實現さする意味で、具體的行動を取る必要があると思ひます。そして大衆に保守的な政治行動と、新なる經濟的要求の矛盾を徹底的に知らせる丈でもどれ程有效であるか知れないと思ひます。

□　松崎嗣郎氏

反動運動は、どこ迄も反動運動に過ぎないものである以上、特別に對抗策等と大騷ぎして力を割く程のものでもありますまい。

勿論、運動途上の非常な妨害さらなれば、思ひ切つてブツ付、やらなければならぬは云ふ迄もない事乍ら、大局に影響せぬ限り、暴氣違へ位と見て、氣を大きく持つて、逆用の途でも講じてやる位の親切が上策のものかと考へます。

□　久保田涼氏

一ツの制度を破壞して新なる制度を確てようとする場合、それに對する反動運動の起ると言ふ事はもとより豫期しなければならない事であるが、それは結極反動運動であつて、よし一時的の成功は見ようとも、それが永久性のものでない事は明白です。無產階級の運動が、熾烈になればなる程、反動運動も或程度迄は勢を高めやうと思ひますが、彼等の勢が高まり、運動が白熱化するといふ事は、無產階級の運動の白熱化すのとは全然正反對の意味だと思ひます。無產階級の運動が白熱化して來る事が、成功に近付く事であるに反して、彼等のそれは破滅に近付くのだ……否破滅に近付くが故に白熱化すのだと思ひます。かく當然破滅すべき運命の下に生れたものに對して正面からブツツかつて行く程の必要もないと思はれますが、時には默殺ばかりとも行かない場合もありませう。けれども何より己の道を直進する事だと思ひます。それによつて反動運助は解決されませう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

魔術の種あかし（一）

——國定教科書の批評——

久保田凉

はしがき

私は嘗て小學校の教壇に立つたものです。現在の教育が特權階級の擁護を目的の主要部分としたものであつて、國民の眞實の自覺を防げ所謂生かさぬやう殺さぬやうに育て上げ、調法なる道具を作る爲めに行はれて居る事は今更言ふまでもありませんが、その主要武器は教科書です。

こゝに、國定教科書の中から資本家階級の魔術の種を摘發し、聊かながら今までの罪亡しをせうと思ひます。

□ベンキヨウセヨ

▲尋常小學修身書卷二の五▼

羽織袴の村長とでも言ひたげな紳士が通りかかると、路傍に、襤褸を纏ひ瘦衰へた放浪者が腰掛けて居る插畫がある。其の說明に曰く、

「ココニ二人ノヲトコガキマス。二人ハモトオナジガクコウニキマシタ。一人ハセンセイノイマシメヲマモラズ、ナマケテバカリキマシタノデ、コンナアハレナ人トナリマシタ。一人ハヨクセンセイノヲシヘヲキイテ、ベンキヤウシタノデ、イマハリツパナ人トナリマシタ。」

夜の目も寢ずに働いても、働いても、生活の苦しみから逃れる事の出來ない無産階級と、榮耀榮華に遊び暮す資本階級なるものゝ存在する事を日常目擊して居る兒童の頭には、この插畫はこう映するであらう。

ココニ二人ノヲトコガキマス。二人ハモトオナジガクカウニキマシタ。一人ハセンセイノイマシメヲマモリガクモンモヨクデキ、ソツギヨウシテカラモ一シヨウケンメイニハタラキマシタガ、ザイサンガナカツタタメクラシニコマリ、ソノウヘ、ツトメテキタコウバモヤメラレタノデコンナアハレナ人トナリマシタ。一人ハナマケテバカリキテガクモンモデキマセンシ、ソツギヨウシテカラモアソンデキテワルイコトバカリシテヲリマシタガ、ザイサンガタクサンアルシ、ソノウヘビンボウニンカラタクサンノモノヲトリタテルノデコウシテラクニクラシテヰマス。

□助力

▲尋常小學讀本卷七、第二十二▼

『夏の眞晝の坂道に
重き荷車ひきかぬる
人を見かねて、物貰は
になへる我荷下に置き
掛聲高く押してやる』

成程世情の眞をうがつた歌だ。勞働者を助けるものはやはり勞働者だ。泥濘の道路に自働車を疾驅させて泥をヒツカケこそすれ、××會社の社長さん貴族とか云ふめるゴロツキの御曹子が車の後を押してやつた等は餘り見聞しない。尤も吹けばケシ飛ばされさうな彼等にすがつてもらつたでは車引の方で却つて迷惑だらう。

『村の役場に三十年
勤めつゞけし小使の
年のよりしがあはれさに
人々物を出し合ひて
樂なくらしにかへてやる』

三十年も勤續した小使が、老後の安定を得る事すら出來ず人々のなさけにすがらなければならぬとは何といふ不合理な世の中だらう。それはそれとして、『物を出しあふ』た連中は何れ働かなくて喰つてる地主様で、出した『物』とは、實は小作人から搾り取つた『物』だ。篤志家の方にこんな『物』が溜つて居ればこそ三十年勤續の勞働者に食ふだけの『物』もないのだ。

□慈善

▲尋常小學修身卷三、第十八▼

むかし羽前の鶴岡に鈴木今右衛門といふじせんの心の深い人がありまして、大きゝんの時に、田はたをはじめ家のどうぐまでうつて多くの人をたすけましたさうだ。妻も娘もそれにならつて自分の衣類等を賣つたり、與へたりして救つてやつたとの事だが、大きゝんにも困らないばかりでなくそうした餘裕さへある位なら、今右衛門の家代々、如何に百姓を搾つたかゞ思ひや

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

られる。右手で取つて左手で與へるのが慈善家なら、鼠小僧の次郎吉は地下でコボすだらう。

『オイ文部省の先生、一體俺は何時國定敎科書に入れてくれやすかい』つてよ。

▲同卷六、第十七課▼

此處にも又空々しい慈善の例が擧げてある。

『和氣廣虫は淸麿の姉にして慈善の心深き人なりき。或年飢饉疫病ありて、人々生活に苦しみ子を棄つる者多かりしかば廣虫深く之を憐み、棄兒ありと聞く毎に人を遣りて拾ひ上げしめぬ。かくて廣虫の手に養ひ育てられし者八十三人に及べり。』

八十三人の子を拾つて育てた廣虫は、その生活費は一體誰が出したのか。他人の子を八十三人も育てゝ遊ぶ女の居れる社會なればこそ、自分の子を捨てなければならぬ者が出來るのだ。

國定敎科書の編纂者よ。君はヒロ虫一人にお世辭が言ひたい爲めに、豐あし原の瑞穗の國のたみ草が、生みの兒を育てる事も出來なかつたと言ふ痛恨事を、さらけ出す事が國家の大恥辱だとは氣が付かないか。

□國旗

▲同卷四、第二十二課▼

『……國旗はその國のしるしでございますから、我等日本人は日の丸の旗を大切にしなければなりません。又禮儀を知る國民としては外國の國旗もさうたうにうやまはなければなりません。』

兒童手をあげて曰く、

『先生、赤旗を國旗にする國があつたらどうしますか？赤旗にもそうさうに敬意を表するんですか？殊に先生、赤旗の角つこへマルクスの肖像を入れたヤツなんかまで出來てるつて言ひますせ。』

□上杉鷹山

▲尋常小學修身卷五 第八、九課▼

上杉鷹山が、食事を一汁一菜とし、衣服は綿服を用ひたといふ。

兒童はさう思つて居る。

『俺達はお菜といつたら大抵梅干かお香か味噌だ。お菜を二色も食べる事等はお祝かお祭の時でもなければ滅多にない。それを鷹山はお菜を二色で儉約だといふ。殿樣つてものはそんなに贅澤なものかなあ』と飛んでもない方へ感心して了ふ。

殊に近從の父が、鷹山の胴着を貰つて着て居た話になると更に臺なしだ。近從の父だつても着物に困る程でもなかつたゞらうに、お古をくれる位だから殿樣は木綿でも新しいものばかりを着て居たに違ひない。之を兒のものは弟に、姉のは妹にと、縞目の分らなくなる迄繼ぎはぎして着る兒童の生活と比較したらどうだらう。

現に私が小學校時代にこの話を聞いた時も少しも感動しなかつた。たゞ殿樣生活の贅澤を知つた丈だつた。壇上に立つ樣になつてからも兒童に說明したら彼等は呆然として居た。呆然とした丈で『先生！殿樣つて遊んで居た人だンべ』とやられなかつたので、まあやまらずに濟む事だけは出來た。

毎日土にまみれ汗を流して働いて居て、殿樣のゴミ溜めよりもひどい粗衣粗食に甘んじ、時にはその粗食さへも得がたい無產の小作人勞働者の兒童に、殿樣一汁一菜で修身の本を作るとは、もうたゞの低能沙汰ではすまされぬ。

處で一ツ面白い事にはこの綿服の奬勵者が、一方に於ては養蠶を勸め、絹機業を盛にして米澤織の源を開いた事である。壇上に立つて此處を話した時は薄氷を踏むの心地であつた。所が果して質問が出た。

『先生此の話はウソだ！』と兒童の一人が叫んだ。そら來たと思つたが、さあらぬ體で、

『何故噓言か？』と反問したら

『木綿の着物を着ろつて言ふ人が、絹織物をこしらへさせるわけがない』と來た。商賣の手前、ムザムザ降參も出來ない。

『それは自分の領地の人には着せないが、他の領地へ賣り出すのだ』と逃げたら『それぢやア自分の領地の人さい好けりやア他の人達は贅澤をして、あとで困つてもかまはないつて言ふのかや？』と突込まれた。私は何とも答へる事が出來なかつた。兒童の鷹山公の崇高な人格もこの兒童の一語で滅茶苦茶にされたわけである。

それにしても、特權階級を擁護しなければならぬ敎科書書き

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

の爲め、引合に出されて子供にツラをむかれる應山こそ飛んだ災難で氣の毒だ。

□苦樂

▲尋常小學讀本卷十二、第十八課▼

『苦あれば必ず樂あり、樂あれば必ず苦あり。先づ苦しみて然る後に樂しむを賢者とし、先づ樂みて然る後に苦しむを愚人とす。永遠の幸福を望む者は一時の勞苦を忍ぶべし。老後の安樂を願ふものは若年の辛苦をいとふべからず。少壯有爲の間を徒に遊び暮さば、老いて後悔ゆともかひなかるべし。』

まるで、苦しみと樂しみとが有機的關係を以て交互に來る樣な事を言つて居る。

こゝで御參考の爲めに、失業勞働者のある示威運動に撒布せられたチラシの一節を擧げて見やう。『我等は今働けば働く程貧乏しなければならぬ。假に現在の勞働者が勞働時間を二倍にしたとせよ。資本家は半數の勞働者の放逐して失業の淵に投ずるであらう。失業者は自衛上賃銀を引下げて働き口の競爭をする事となる。勞働階級の全面に渉りて、必然賃銀は低下し、我々は益々貧困となるであらう』と。

それに依れば、現制度の下には出來る限り怠ける事が、せめて自己の守る途である。

教科書とチラシと、どつちが本當か。それは無産階級の實際生活に依つて絶對不動の論證が與えられつゝある。

資本主義の社會に、働く者が誰で、遊ぶ者が誰か。富む者が誰で貧しい者が誰か。此の明かな事實は流石の編纂者も見落せなかつた。そこで彼等はゴマカシの方向轉換をやつて來た。

『富貴は人の欲する所、貧賤は人の共にいとふ所なりといへども、富貴なるもの必ずしも樂しからず。貧賤なるもの必ずしも苦しからず。守る所正しければ、心に憂苦なく、行ふ所直ければ、身常に自由なり。位人臣の榮を極め、富天下に冠たるも、自ら省みてやましき所ある者は、苦多く、樂少し。』

『働け〳〵』と追ひ立てるやうな前節と、『貧乏したつて氣の持ちやうで幸福だよ』と言つて濟ました後節との、矛盾撞着、出駄良目二枚舌は一體何を意味するか。

資本家の富を増す爲には勞働者を働かさなければならぬ。所が働く者に貧乏させなければ、資本家が自由自在に搾り取る事が出來ぬ。働く者が貧乏すると云ふ、今の社會の事實、此の事實を言ひ廻し巧みに、騙し〳〵承知させなければならぬ所に、こう云ふ面白い出駄良目を考へなければならぬ。

前には働けと言ひ、後には貧乏に滿足せよと云ふ。矛盾した社會を粉裝する教科書が矛盾に陷らない筈はない。これを知らん顔で書かなければならぬお役人も、あんまり『樂』なショウバイではなさそうだし、それを又唾を呑み〳〵小供に教える先生も、相當に『苦』の多い稼業だ。『苦あれば樂ある』筈だのに、小學校の先生が煮豆の辨當で二十年通つて苦しみ扱いた揚句、肺結核二期なんて言ふのは何と言ふ皮肉だ。この薄運の先生が若し『心に憂苦』を覺えたら、それは『守る所正し』くないからだと言ふのか。馬鹿ッ！

助けて呉れ

兵庫 又呂九

助けて呉れ、世の中に何が弱いと云つても、俺達位い弱い者はあるまい、社會からは「先生様」で人間あつかいにされないし、市視學、縣視學と校長は、之れでもか〳〵と壓しつけるし、其上アルの父兄からは、常に白眼を以て監視される見ろ、俺達の顔色を、青春の血は拔け去つて、マルで賣れ殘りの菜葉其儘だ。

因循と卑屈と、おまけに極端な利己主義は、俺達一般の代名詞だ、それはまあ我慢するとして、癪に障るのが、アルの教育法だ、それを無邪氣な兒童の頭に、熱湯を呑む心地で、有難相に説教しなければならないとは何事だ。

其外、修養團だ、ヤレ青年指導だッ、なんだ彼ださて、御用繁多だ。

もし〳〵それを忘るとき、團結なき悲しさ、三人の子供を抱へて其日から路頭に迷わればならない。

アア弱きもの、汝の名は「先生様」か。

その時こそ

福岡 火鞭生

――私は××小學校の訓導です。昨年師範學校を出たばかりです。三年級の時から社會主義に興味を持ち、少しづゝ研究を續けてゐます。私の最も苦勞する事は資本主義軍國主義の中毒から、如何にして兒童を救はんかと云ふ事です。

何れ、ブルヂョアと官憲との壓迫が來るでせう。併しそれは素より覺悟して居ます。そうして、その時こそ、渾身の勇氣を振つて起ち上る時だと今から心を定めて居ます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

共産制問答

A 共産制に就て何も知らぬ人
B 共産制に就て一通り知る人

A『共産制度になれば、地主や資本家が無くなると言ふんだね』

B『そうだ。君だつてそれだけの事はわかるんだな』

A『それぢや、今の地主や資本家は、皆んな叩き殺したり島流しにしたりするのか。恐ろしい惨酷な主義だね』

B『すそこだ、君等の社會主義批評はその程度の低級なものだ。地主とか資本家とか言ふのは、人間の事ではなくて、人間の立場の事だ。生れたまゝの人間が違つてゐると言んではない、社會上の立場が違ふんだ。彼等を無くすると言ふのも、その人間を無くすると言ふのではなく、その人間の立場を變へやうと言ふんだ。土地だの工場だのを、今のやうに個人々々が持たないやうにせうと言ふのだ。丁度、維新の革命が、大名の政治上の權力を奪つて、大名と言ふ立場を打ち壞したと同じやうにね』

A『わかつた。所が、地主や資本家を無くしちや困るんぢやないか。勞働者だけでは生産はやれないからな』

B『君は地主と土地とを混同し、資本と資本家とを取り違えてる。土地や資本——つまり生産機關だね。それは無ければならないに極つてゐる。併し、それは物であつて人ではない。土地、鑛山、汽船、機械、原料、燃料などが即ち資本であるが、地主とか資本家とか言ふ人間が無くなつたつて、之等の物は決して無く

日本に實在せる共産制
青森縣の尻屋村（1）

鈴木東藏

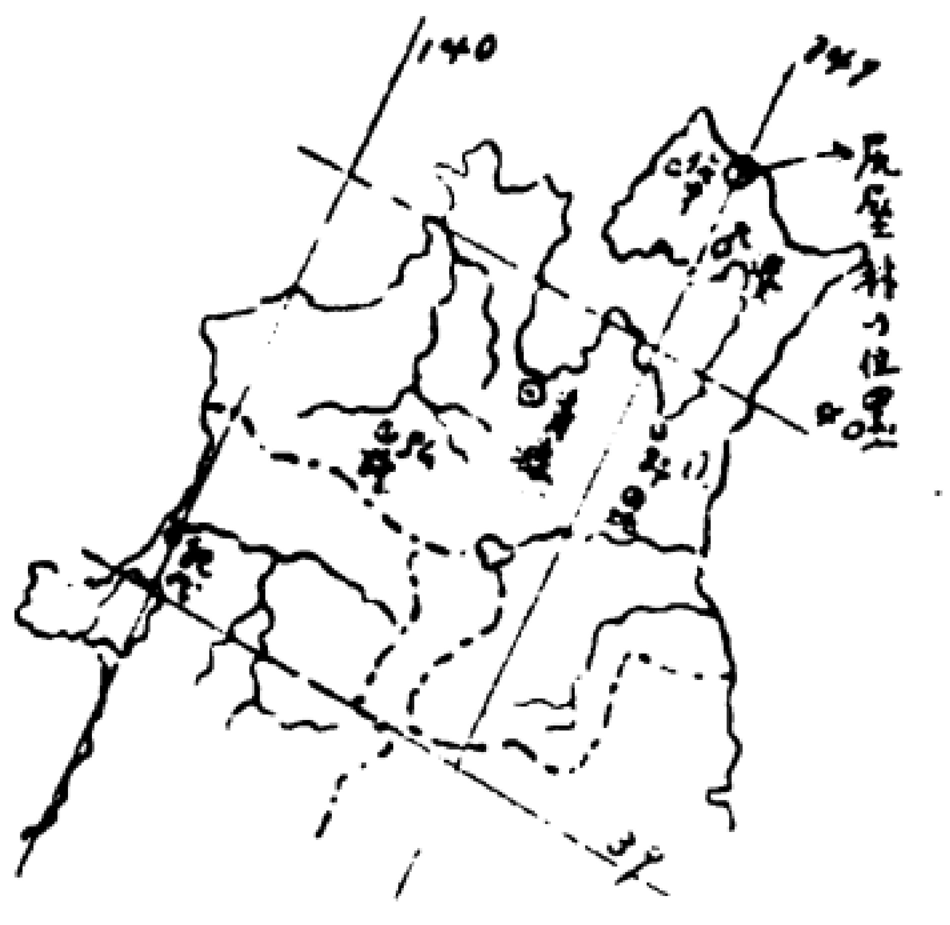
一、七百年來の共産制

尻屋村は青森縣下北郡の北部にある。斗南半島の東北端に當つてゐる。大平洋を前にし、七ッ森の連山が後方を圍繞し、風は軟く日當りはよく、村全體が日向ぼつこをしてゐるやうな地勢を占めてゐる。

此の天然の樂境に、戸數三十三、人口二百餘の共産村は、人間の社會生活が作り出し得る最も進んだ狀態を暗示して居る。

口傳に依ると、今から約七百年前、尻屋岬の東端、今の燈臺のあるあたりに、戸數二十ばかりの部落があつた。所が此の地は、地情が稍々不利益な爲め、全村擧つて今の地に移住し、尻屋村を作つたやうである。

村内の、土地の模樣を見るに共有地と私有地の配置、各戸所有地の區分などが、整然として統一がある。此の配列は村が移轉した時に定められたものらしい。それで、此の村の共産制は村落開創の時からの事である。それは、前住の濱尻屋時代から行はれて居たものであるか、それとも移住の時制定したものであるか、それは明かでないが何れにしても七百年内外の歴史を有してゐる。



此の長い期間に渉つて、共産制が保持せられて來たと言ふ事に依つて、共産制なるものが、人間の本性と矛盾したもので無い事が語られてゐるでは無いであらうか。周圍を圍繞する私有制の社會から、久しく諸々の刺戟や壓迫が加つて來るに拘はらず、それに感染する事なく、それに誘惑せらるゝ事なく、此の小さな自己の世界を守つて來たと言ふ事は、共産制が人間の心を強く引き付けるものであるからでなければならぬ。

二、主要産物の共産

村の主要生活は昆布の採取である。年額約三萬圓に達してゐる。此の生産が全然共産制の下に行はれてゐる。採取期には全村總がゝりでそれに從事する。そうして得たものは、各戸に平等に分配するのである。

村から出る、軍人、小學以上の學生、木工、鍛冶等に弟子入りをする者、妊婦などに對しては、共産物の中から分配して負擔を扶ける。殊に出産者、重病人等に對しては、それ等の看護人をも養ふ意味で二人分の分配をする。

公職に從事する者は勿論、不具廢疾者その他何かの事情で勞働する事が不能になつた者に對しても、分配するし、その事情

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ならない。それは昔の大名が無くなつたつて、山や川は無くならなかつたと同じだ』

A『所で一つ、共産制になつて困る事は人間が皆んな怠け者になるだらう』

B『その理屈は、もう随分聞き古したものだ。併しそれ程見易い誤謬はないよ。君は、人は資本を貯めて大富豪になる望を抱いて居ればこそ一生懸命働くと言ふんだろう。所が考へて見給へ、今日の勞働者は、果して富豪になる望があるのか。夜業が付けば一日十二三時間も働く勞働者が、一體幾人富豪になる望みで働いてゐるのか。それだけ考へたらわかるぢやないか』

A『一般の勞働者は、なる程、働くだらうが、研究とか發明とか創業とか言ふやうな、特殊の技能や努力の要る仕事は特殊の報酬や利益が無くてはやれないだらう』

B『それは勿論そうだ。併し特殊の利益と言ふのは、何も財産や金ときまつた事はない。オリンピアの競爭では月桂樹の冠の爲めに命懸けの奮闘をした。今の錢で固つた社會なればこそ、何事も金が目標になつてるやうに見えるし、又實際一度は金を手に入れなければ他の欲望を抱いて居ても、それを充たす事が出來ない。所が考へて見ると、資本家が資本を蓄積する心理は、資本に依つて自己の社會上の地歩を得やうとするにある。謂はば名譽の欲望、力の欲望である。そこで、假りに金は得られなくても、名譽が得られるならば、それは人をして充分努力せしむる力がある。殊に、共産制度の社會で、研究とか發明とか言ふ、特殊の

が已まない限り、終生分配は續けられる。

かく、不幸者が村から擁護せらるゝのみでなく、村民相互の間に、深い共助の精神が泌み入つてゐる。例へば火災に遭ふたやうな場合は、共有林から伐り出した木材に依つて、村人總がゝりで家を建てる。屋根の修繕の如きも、村中から柾を二丸づゝ持ち寄つて手傳ふ事になつてゐる。病人に對する見舞の如きも、眞に到れり盡せりの手篤さである。かゝる精神や慣習は、勿論社會制度の反映であらふ。

三、勞働力の管理

生活の不安を語り合ふやうな事は、こゝの村人に取つて全く想像もしない事である。併しかく物質生活の安定が保たるゝには、一方に勞働の提供が確實でなければならぬ。そこで村民の勞働力を管理する事の必要に到達する。

尻屋村は、全村民の勞働力を管理してゐる。村民は、すべて村の支配を受けて勞働しなければならぬ。それで、昆布の採取期には、村民は殘らず濱邊に出て老人も小供も男も女も、それぞれ適當な役目を分擔して働かなければならぬ。併し、それは工場内の勞働者が賃銀を貰つて働くのと異つて、勞働力を賣るのではないから、勞働の直接の報酬は貰はない。その代り生産した物は全部村民自身のものである。個人々々はその分配を受ける。それで、つまり、自分が働いて自分の生産物を作るのと同じ理屈を、村民全體が共同でやる譯である。共産社會に於ける勞働は、此の點が資本主義社會と全く別である。

そこで、此の村に勞働問題は一切起りやうがない。

例へば、今の社會では失業問題が常に起るが、その原因の一つは機械の進歩である。それは機械の進歩に依つて、今まで五人分の仕事が三人で行れるやうになれば、資本家は賃銀の總額を減す爲めに、無論二人を逐ひ出す。そこで失業問題は起るのである。

所が共産制度の社會なれば、このやうな場合、五人の勞働時間が短くなるか、生産物の總量が殖えて、皆の生活が豊富になるかである。此のやうな社會には、勞働問題の起りやうはないが、それが、尻屋村に依つて、示されてゐる。

勞働が管理せられてゐるから次に述べるやうな、私有地の耕作などで、自分の爲めの勞働に就く場合にも、村の許可を受けなければならぬ。

四、共産内の私有

此の共産制度の一部分に、小さな私有が許されてゐる。先づ、土地に就て見るに、左の如くなつてゐる。

共有林野	七五六反一五
私有林野	八二反〇七
私有水田	一〇反五七
私有畑地	二〇反四六

此の共有林野は、建築用の木材や、燃料などを取る爲めと、牧場とに使用せられて居る。村民中に家災に遭ふた者などがあつた時には、村民が寄集つて家を建てゝやるが、そのやうな場合に、木材を得るは此の共有山林である。

所が、一方の私有地は、何しろは村中のものを合計して之だけしか無いから、殆んど言ふに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

仕事をやるならば、それが社會全體に歡迎せられ、讃頌せられ、名譽や感謝を以つて迎へらるゝ、準は、今の社會よりも遙かに甚しいであらうから、優れた力を抱く者は、競ふて立派な仕事を仕遂げるであらう。尤もその中で、俺は錢にならなければ一切イヤだと言ふ者があれば、それは一種の變態心理の持主だから勿論例外だ。我はこのやうな變態心理の患者を標本にして理屈を言はうと言ふのか』

A『よし、まあそれも解つたとせう。も一つ困る事がある。今の社會では資本家が自分のものなればこそ、生産機關を大切にし、多くの金を注ぎ込んでその發達を計るのだが、共産制度の社會ではさうは行かないから、生産機關の發達が止まるではないか』

B『それもよく出る奴だ。が併し考へて見給へ、資本家が自分のものを大切にすると同樣、社會も亦自分のものを大切にする筈ぢやないか。社會がやると言ふには、つまり社會のそれぞれの機關がその局に當り最も優れた適任者の頭腦と手腕とに依つて、一切の必要な仕事は最も完全に仕上げて行くだらう。例へば今の兵器を見給へ、役目々々の擔任者が苦勞して改良を計つて居るではないか。なにもその人達は、兵器の改良で資本を蓄積せうと言ふ了簡ではないよ。

一人や二人の資本家の利益の爲めにさへ、産業が進歩するものならば、社會全體の幾十萬人の爲めに、一層速かな發達が見られやうぢやないか。人間の社會性や愛他心は、今の社會の制度の爲めに、根こそぎ抑え付けられて居るから……』

足らん位のものであるが、それは村民が各自に自分の田畑を耕したり、自分の山林から薪を取つたりして、こゝには私的の生産と消費とが許されてゐる。

その他に、昆布以外の海産物鮑、布海苔、石花菜などは私有的に採る事となつてゐる。それ等の年産額を見るに、

鮑	七、〇〇〇圓
布海苔	二、〇〇〇圓
石花菜	、四〇〇圓

で、合計一萬圓足らずのものであるが、之はすべて取つた者の私有物となつてゐる。

併し、こゝで特に注意を要するは、第一土地は私有が許されてゐるけれど、一般社會に於けるが如く、不公平に分布してゐるのではなく、全村殆んど均等の面積を所有してゐる事である。それは生活の窮迫が無いから、土地を賣り放つ者が無いと共に、特に廣い土地を持たうと望む者も無いからである。所有物に大變な差のある社會なればこそ多くの土地を持つ事が名譽にも考へられやうが、共産社會は人の心を全く違つたものにしてしまつてゐる。又、自分が廣い土地を持つて、それで人を働かして搾るなど言ふ事は、こゝでは想像も出來ない事であるから、此の點からも土地を兼併する慾望などは起らない。

それから第二に、私有的の採取をやつてゐる海産物も、その採取時間などは、嚴重に公平が保たれてゐる。即ち何時から何時までと村で定めたら、それ以外の時間は誰も絶對に取る事が出來ない。そこで、勞働條件は極めて公平な爲めに、各人の採取の量に、そんなに大した差がなく、こゝから貧富の區別が生ずるやうな事はない。

一般、私有資本主義と言ふものゝ禍は、生産機關を所有する者は勞働せず、所有しない者のみ勞働せしめて、而もその生産物を搾り取る事である。所が尻屋村では私有とは言ふものゝ、村民各自が自分の爲めに勞働するだけの事であるから、勞働者が資本家の爲めに勞働するのとは意味が違つてゐる。

勞働者が資本家に搾られなければならぬのは、生産機關を自分で所有しないからであるが、尻屋村では海がツマリ生産機關に當つてゐるから、こゝでは生産機關が私有物ではなくて共有物である。即ち共有の生産機關に依つて各人が勞働し、生産物はそれぞれ私有する譯である。

此の狀態は、私有資本制よりも寧ろ共産制に似たものだと言はなければならない。

五、公費と共同購買

村には共同販賣所が設けられて居て、村民が金に代えやうと思ふものは、分配された昆布でも銘々取つた鮑などでも、皆そこへ出して賣る、村は各人の賣上高から五分を税金として收納し、之に依つて村の經費を支辨して行く。

又、村が共同購買をやる。それは村民の注文を集め、一括して外部から買ひ入れる。消費組合と同じ仕事である。縣税などを納めるにも、村が取り纒めて送つたり、時には立替えたりする。こゝにも全村一家族の如き共産精神が現はれてゐる。

日本に實在せる共産制の研究は數回續けて行く。次號は

伊豆の初島の共産制

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

法律逆用の研究

法律を逆用する事は、プロレタリアに取つて生存上の一つの武器である。そこで逆用の原理、應用、呼吸、技術等を素人の立場で研究して行きたいと思ふ。こゝに山崎氏から貰ふた資料の中に含まるゝ事實は、官憲と官憲との法律逆用的詭托をも暗示するものであつて、その點も面白い。

法律逆用の意義と實例

山崎今朝彌

法律の逆用といふ文字元來の意味はどういふ事であるか僕は知らないが、僕が言ひ初めた法律の逆用といふことは、反抗反逆の手段として法律を利用するといふだけの事である、警察が盛んに職權を濫用して天下ノ惡法違警罪即決例や行政執行法を惡用し、無辜の良民を矢鱈に拘留する事も法律の逆用であらふし、又强權と法律とを無視否認するアナーキストが、進んで裁判をする事も法律の逆用と言へよう、が僕のはソンナ高遠な哲理から出たものではないらしい。

何時から僕が法律の逆用と云ふ事を云ひ出したかはハッキリ覺へはないが、大正八年の「平民法律」にはコンナ廣告がある。

平民法律は、平民大學直營の平民法律が、法律逆用のため、無料專門我儘御免にて實地取扱ひたる、社會問題に關係ある法律事件を、通俗平凡、面白可笑しく解說する、平民法律所の御用誌なり。(大正八年改正)

本年正月朝日新聞の「大正十二年を迎へて」の返答に、僕はコンナ事を書いた。

大正十二年は去年に引續き、其れにも增して舊勢力が衰へ新勢力が擡頭する。總じて反動運動が勃興し隨所に血腥い事件が頻發する。都會の社會運動が地方に移つて農民運動や小作爭議が猛烈に繁昌する。裁判に對する不信用が極度に厚くなり日本も愈々文明國となる。社會運動が政治運動となる。無政府主義者が無くなつて社會主義者が悉く國家社會主義者となり、國家社會主義者が國家主義者となる。法律の逆用濫用運用應用が盛になる。團體の決裂と合同が流行し勞働組合の大聯合がキット出來る。政府は其間私かに制定中の過激法案を通過させるかさせないか。其他枚擧に遑あらずと雖も概ね確實の類にあらず。

僕が法律を逆用した例は澤山ある、誌面の許す範圍に於て、最近のものから順次例叙して見よう。

最も最近の新しいのは此の雜誌の發行さるゝ五月一日のメーデーに、東京地方裁判所民事第十三部に大正十二年(ワ)第七九七號として口頭辯論のある、原告米國伯爵山崎今朝彌・被告日本華族某若夫人間の報酬金請求事件である、此事件は其後其若夫人より僕に對し恐喝取財の告訴があり現に豫審中であるから詳報する事や辯解する事の自由を有たないが、左の書類で大體は判かる。

訴狀

東京市芝區新櫻田町十九番地
辯護士米國華族
原告 山崎今朝彌
東京市某區某町日本華族
被告 某若夫人
右同所運轉手
被告 田口小太郎

一定の申立幷に請求の目的

被告は各金二千圓に送狀送達の翌日より本件完濟迄年五分の損害金を付して原告に支拂ふべし
訴訟費用は被告の負擔とすとの判決幷に保證を條件としての假執行の御宣言を求む

請求の原因

一、被告田口は大正十二年一月廿八日被若夫人に對する婚約不履行に基く慰藉料請求幷に運轉手職不當解雇に基く損害金請求訴訟を原告に委任し、着手金無く其代り成功謝金は成効の二割五分、委任の解除請求の拋棄、和解等は成効と見做し請求金の二割五分を即時に支拂ふことを特約せり
(甲一號證委任狀幷に甲二號證契約證を以て立證す)

二、被告田口は曩きに自身、原告へ委任前一月中一萬七千五百圓を被告若夫人に請求し、原告は其請求金を三萬二千圓が相當なりと算定して訴狀を作成し、被告田口は訴訟となりたる以上其額以上の請求を

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なしたしと主張したるものなるも、原告は一萬圓の二割を以て足れりとし其以上を請求せず（被告に於て之れを否認するときは警視廳刑事部士屋捜査係長、中村歌右衛門、運轉車加藤某、拔告の母、某銀行重役等を證人に申請す）

三、然るに被告は其後一月卅一日警視廳に於て被告若夫人と私かに和解を爲し權利全部を抛棄したりと稱し卽日原告への委任を解除し、二月一日には尙入念に再び委任解除の通知を爲すと共に其後踪跡を晦らまし謝金を支拂はざるにより原告は本訴を提起するの止むなきに至りたり（甲三號證杉本刑事委任狀、甲四號證捜査課の證據物受領證、甲五號證田口の內容證明通知書を以て立證す）

四、被告若夫人は原告が田口より前記事件を受任したることを知るや太く之れを嫌忌し、其母、某銀行重役某、某等と協議の上、重役某の妻の妹婿赤池某が現に警視總監なるより之れを利用して田口を恫喝し、其請求を抛棄若しくは讓歩せしめ且つ其力により田口を原告と隔離し以て原告が田口に對して有する債權を侵害せんことを企て、一月廿九日未明警視總監の內命に基く捜査係長の命令なりと稱する警視廳刑事巡査部長杉本政治外一名をして、田口を其旅館より自動車を以て警視廳に拉し去らしめ、二月一日迄之れを拘禁し其間手を替へ品を替へて日夜百方之れを脅迫せしめ遂に被告自から警視廳に出頭し囹圄に僳へ居たる田口に請求抛棄の和解を爲さしめ飽書の殘り其他の證據品全部を取り上げ、一方警視廳をして再び田口が原告の處へ立廻り若しくは寄り付き又は居所若しくは內容を原告に告ぐるが如きことあるときは直ちに恐喝取財を以て逮捕すべき旨を言渡さしめ、且つ二人の尾行を付して一月一日何れへか釋放隱匿し以て完全に前記原告の債權を侵害したるものなれば原告は被告に對しても不法行爲に基く債權侵害を原因とする本件訴訟を提起す（前記甲第一號證乃至第五號證幷に甲六號證、甲第七號證、甲第八號證警視總監官舍內某より田口に宛てたる書面全部の寫及び前記の證人並に前記某々、赤池、杉本の證言及び田口に對する恐喝事件の記錄取寄被告に對する書類提出命令の申請並に田口の本人訊問等を以て立證す）

五、抑々本訴元來の目的は事全く金錢問題にあらざるにあらずと雖も必ずしも被告等が惜ひなりと云ふにあらず、田口が請求を爲す若夫人が驚く、實母が相談に乘る、女が思案に除る、某々が忠義立する、素人が辯護士を怖がる、姻戚の大官が一肌脫ぐ、下ッ端役人がオヒゲの塵を拂ふ、無理もする人權蹂躪もある、往生もする和解解決もする、謝金は出し度く無くなる被告は逃げ隱れも仕度くなる之れ皆寧ろ當然のことなり、原告はこんな事の解らざる人間にあらず故に當時既に早く關係者が相當の禮を以て原告に臨み原告の了解を得たらんには原告も既に本件請求の權利を抛棄したりしものならん

六、然れども當時原告が關係者にあれ程口を酸くして、本件は田口と原告との眞の了解を得て和解するにあらざる限り永遠に滿足なる圓滿の解決を遂げ得るものにあらず、辯護士は常に一家の見識を有して事件に臨むものなれば本件の如き事件に辯護士の介入するは寧ろ被告に取り非常の利益あるものなり、特に原告の採り若しくは採らんとする態度に對しては被告は頗る感謝すべきもの多々之れあり、法律の事なら警視廳が十や二十束ねて來たからとて到底原告に及ぶべくもあらざるは自明の理なれば、之れを考へずに小策を弄すれば後日必らず臍を嚙むことあるべし、と嚙んで啣めるだけ堅く云ひ聞かせ置きたるに拘らず小人遂に養ひ難く、訴外某々と訴外警視廳の下ッ端役人との猿智惠により、一時原告に身を明かせ陰にて私かに否を出し、して遣つたりと手を拍ち痛快を呼ばせたるは聊か心外の至りなるも、彼等を相手とするは聊か不足あり、さりとて又訴外赤池某を被告とし寧ろ憲政會あたりに政府攻擊の材料を與ふるに過ぎざることも此れ又聊かべラ棒の感あり、依て原告は茲に金に轉んで只民事責任者の一人たる被告等に本訴を起し、被告若夫人には聊か氣の毒の感なきにあらざるも止むを得ざることとして傍ら小策を弄したる無智なる者が今に至つて初めて後悔する處あり思ひ知る處あり恨まるゝ處あるを見て獨り自から慰藉し兼て痛快を叫ぶに止めたり。

大正十二年三月一日

右　山崎今朝彌

東京地方裁判所民事部御中

スヽメリーフレット (1

小作人の立場

北原龍雄

一 小作人の立場と役目

小作人は二つの立場に立つ。一つは全體の國民に對する立場であつて、今一つは地主に對する立場である。

小作人は米を作る事が役目であつて、一般の國民は米を常食として居る。即ち小作人は米の生産者であつて、一般の國民は米の消費者である。この生産者と消費者との關係が、即ち一般の國民に對する小作人の立場である。そこで、小作人は一般國民の食物の生産を引受けておるといふ重大な役目を帶て居る。この立場から見て、小作人は自分の仕事が大變尊いものであるといふ事を考へなければならない。地主なども自分の事を農民々々と言つては居るが、大地主の作つた米は一粒だつてありはしない。農民とは農作物を作る人間の意味であるから、本統の農民は小作人か自作農の事である。、地主なんかは遊民か、惰民かであつて、決して農民ではない。故に國民の常食の生産といふ重大な仕事は、大體小作人が引受けて居る事となる。

これが小作人の一般國民に對する立場である。此の立場に伴ふ役目を充分に果して行かうと思へば、小作人は出來るだけいゝ米を、出來るだけ安く、しかも充分に一般國民の手に入れるやうにしなければならない。それが小作人の當然の責任であつて、又心の底からの願でなければならぬ。

然るに、小作人が一般の國民に提供する米は、自分で直接提供するのではなく、一旦地主に取られ、地主のものとして賣り出されるのであるから、いかに小作人が一般社會の爲を考へても、もう小作人の自由にはならない。たとへ、一般國民が餓死しかゝつて居る時に、地主は米一ぱい滿ちた倉の戸をピンと閉め切つて居つても、苦情一つい ふ事は出來ない。今の法律では警察も軍隊も地主の倉を守るやうに出來て居る。

2 搾り取る者と取らるゝ者

人間といふ者は久しく慣れてしまうと、どのやうな不思議な事でも當り前のやうに考へて來るものである。例へば、封建時代の大名は自分の勝手に人を殺す事も出來たが、當時の社會ではそれも當り前の事のやうに思はれて居つた。それは、當時の社會の人が、永い間の習慣の力に依つて、本統の道理を忘れしめられて居つたからである。

今の社會に地主といふ者があつて、小作人の作つた米を半分とか六分とか取つてしまう事も人々の頭に當り前のことのやうに考へられるのは、矢張り習慣の力である。

それは兎に角として、地主は取り小作人は取られる。これが地主に對する小作人の立場である。この立場から、小作人の身の上はどのやうな事になるか。

第一は、前に言つたやうに、一般國民の食料を生産するといふ重大な役目を帶びて居りながらそれを完全に果すことが出來ない。第二には、小作人自身が、人間として我慢の出來ない程の貧乏に苦しむ事である。そこで一方では一般國民の爲に、一方では小作人自身の爲に、此の地主に對する立場に就ては充分深く考へて見なければならない。

昔話に、石川五右衛門が秀吉の屋敷に忍込んで捕まつた時、寶物を盗む俺が泥棒だとすれば兵隊に弓矢を持たせて百姓を脅し付けて、その米をたゞ搾り取つて榮華を極めるお前は一體何だと、叱り付けたといふ事だ。全くその通りで、一人や二人の金持を盗む五右衛門よりは、天下何千萬の百姓の血の汗を搾り取る秀吉の方が、どれ程惡いか知れないのである。

又こういふ話がある。河中島

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

の戰爭の時に、武田と上杉とどつちが勝つた方がいゝかと、信濃の百姓に尋ねた所が、どつちも負けて兩方とも滅んでしまうが一番いゝと答へたそうだ。これも全くその通りで、大名とか武將とか地主とかいふ者は、それが上杉であらうが武田であらうが百姓に取つては敵である。どつちも滅んでしまはなければ百姓の幸福は來ないのである。

これは市川左團次氏のやつた芝居であるが、楠木正成の孫か何かに當る正儀といふ人が、弓矢を捨てゝ北朝に和睦を申込む時百姓が皆喜ぶのを見て「楠木の家は滅ぶとも天下の民は榮えるであらう」といふ所がある。正成は君への忠臣であつたが、正儀は幾千百の百姓の犧牲者であつた。百姓を搾つて自家一門の榮華を誇ることを名譽とする者は、今の學校の歴史の本などでも賞めてあるが、これは間違つた考へ所ではなくて、立派な犯罪思想である。

人が人を搾り取るといふ事、人が汗水流して作つた物を、他から横取りするといふ事は、それを、秀吉がやらうが五右衛門がやらうが正成がやらうが尊氏がやらうが、又如何なる口實、如何なる名義の下に行はれやうが、明かに許す可からざる罪惡である。尤も、こゝで罪惡といふのは、法律上の罪惡といふ意味ではなくて、人間の踏むべき本統の道から見ての罪惡、人間の僞りのない良心の判斷から見ての罪惡である。法律なんていふものは、作る人間の勝手になるもので、秀吉の時代には秀吉の法律、尊氏の時代には尊氏の法律が行はれた。それが如何に作る人間の得手勝手なものであるかといふことは、時を過ぎて見ればよく分る。現に、德川幕府の法律を今から見れば、法律そのものが全く罪惡の固りであつたといふ事が誰にも考へられるではないか。

何時の法律だつて、搾り取る者と搾り取らるゝ者とが向ひ對つた社會に、搾り取る者を保護するやうに作られた法律は、皆尊氏の法律、清盛の法律、德川の法律と同じ類である。

3 農村を襲ふ資本主義

日本の工業は、此の三十年程の間に、今までの二千何百年間に嘗て見た事もない大發展を遂げた。例へば、糸引車で一日に何十匁かの綿を引いて居つたのが、何千斤の綿が立ち所に糸になるやうな紡績工業に變つた。五十石積か百石積の帆船しか造れなかつた船大工から何萬噸の汽船を造る造船工業に進んだ。此のやうな大變化は、今までに無かつた大きな機械が發明され製造され、又今までは知られなかつた蒸氣力とか電氣力とか、化學作用とかゞ自由に使用されるやうになつた爲である。

所が、是等の機械や、技術や學問は社會全體が所有したり、使用したりするのではなく、金を持つた個人が獨占してしまつたのであつた。それが所謂資本主義生産制度といふものであるが、その結果、是等の機械で作つた品物は、自然是等の機械を所有してをる資本家個人のものとなるのである。そこで資本主義生産制度の下では、非常に澤山の賣る爲めの品物、即ち商品が作られることゝなる。

此の商品はどん〳〵農村に押しかけて來た。機械や學問で作つた品物は、手製の物よりもうまく出來て居るに極つて居る。使つて便利がいゝ。そこで農村の人達も、日用品なり、農具なり、今までのやうに總て手製で間に合はしてはをれず、此の商品を買ふやうになつたので、今までよりも金の必要が增した。それだのに自作農の人々が、そんなに多く金を手に入れる事は出來ない。つい、借金をすることゝなる。借金には土地を擔保にするの他はない。所が使ふ爲の借金はなか〳〵拂へるものではない。殊に天災や不作に會ふものなら、益々借金は增へる一方で、とう〳〵土地を手放してしまうことゝなる。

自作農が土地を失ふ事情は、買ひたい品物が增へて錢が澤山要るやうになつたことが、第一の原因であらうと思ふ。併しこの事は、政府の役人などが言つて居るやうに、勤儉の精神を缺いだなどゝいふ惡い事ではなくて、世の中の文化が進んで行くに連れて起る所の、當然の成り行きである。

人には人の本性といふものがある。人類が大昔の半獸のやう

な生活から、今日の文明にまで進で來た根本の力は、實に此の人間性の働きである。資本主義生産制度の大規模の機械工業が全世界に廣がつたのも、又そこで作られる商品が、全人類の欲望に當てはまつて、非常な勢で消費せらるゝのも、何れも人間性の流れに一致して居るからである。それで日本の農村の人々が、資本主義の生産に依つて作られた種々の商品を歡迎するのも、人間性の强い力に根ざしたものである。

かの低能役人や間拔け思想家などが、時勢の變化を少しも知らないで、無暗に勤儉や節約を進めるのは、今の人類を野蠻時代に押し返そうとするのと同樣人間性に反いた全く無謀な企てゞある。

そのやうな譯で、此の十年二十年來自作農が段々金の必要に迫はれて來たといふ事は、深い々々根據のある事であつて、決して一時の輕い人心などから來たものではない。隨つて此の事情は、將來も次第に甚だしくなつて行つて、決して止まるものではない。それで此の事情から來る自作農の減少も亦、益々ひどくなつて行くものと見なければならぬ。

こゝには詳しい説明をする暇はないが、資本主義の生産制度が廣がつて來れば、自作農はどうしても滅びなければならない理由は、右の外にも澤山ある。その一つは、今後の農業には、どうしても段々機械が應用されて來る事である。

工業に大きな機械が採用され始めた時、小刀職人や、小さな工場持はそれを買ふ事が出來なかつた爲に、大きな資本家に壓倒されて獨立の立場を失ひ、大資本家に賃銀をもらつて雇はれるの外仕方がなくなつた。農業に機械が取り入れられる事となると、高い機械を買ふ事が出來るのは、大きな地主だけだから、自作農は前の小工場主や、小刀職人と似よつた運命になつてしまうであらう。

現在の農業の機械は、日本の田畑に適當しないけれども、機械は元來どこまでも進歩するものであるから、やがては、日本の田畑に適當なものも作られるに違ない。そうして其時は右に述べた事情で、自作農は渦卷の中へ吸ひ込まれるやうに、一度に打ち亡ぼされてしまうであらう。

4 社會革命と小作人の使命

何れにしても、自作農は次第に減少して行かなければならぬ。併しこゝでの問題は自作農の事ではなくて小作人のことである。自作農が減少し、滅亡しなければならぬ運命を持つて居る事に依つて、小作人が自作農になつて行く事は到底不可能であるといふ事が、明かに語り示されて居る。

そこで始めの本題に立歸へるが、小作人が搾り取られるといふ身の上から拔け出る爲に、自作農になるといふ事は全く望みのない事となつた。それならば永久に今の境遇に苦しまなければならないであらうか。そうではなくて、たゞ一つ運命を開く道がある。

それは、地主とか小作人とかいふ差別を、此の社會から取り除く事である。

一體、搾り取るものと搾り取られる者との關係は、盜む者と盜まるゝ者との關係に等しい。一方に泥棒があればこそ他の一方に被害者が出來る。泥棒が居なければ被害者もない。それと全く同樣であつて、搾り取る地主があればこそ搾り取らるゝ小作人が出來る。或は反對に、搾り取られる小作人があればこそ搾り取る地主が出來るといつてもいゝ。それで地主と小作人とは同時に生れた者であつて、又必ず同時に無くなるべきものである。小作人が、地主に對する自分の立場、即ち地主に搾り取られるといふ立場を打ち壞すならば、それと同時に地主の搾り取る立場も又自然に打ち壞されるのである。斜になつた天秤棒の、下つた方を引上げて水平の所まで持つて來れば、上つた一方も自然に水平の所まで引き下げられる。

そうするには、一體如何にすればいゝか。それは土地を地主の手から、社會國家の共有とするのである。土地を全部國家に買ひ取つてもらいたいといふ主張は、此の頃地主の間にも唱へられて居る。併し地主のいふ通りの値段で國家が買ひ取ること

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が出來るならばそれもいゝとせう。若し出來なければ果してどうなるであらうか、又どうすればいゝであらうか。

大正九年の調査によると、自作人小作人の合計約五百五十萬戸に對して五十町歩以上の大地主は僅かに、四千八百戸に過ぎない。五町歩以上の地主を總計するも十七萬戸に過ぎない。要するに大地主と、一般農民との爭ひは、此の十七萬の少數と、五百五十萬の多數との爭ひである。否そうではなくて、寧ろ無産階級同胞全部と小數地主との爭ひである。これが、如何に成り行くか、又如何にしなければならぬかは、最早細い理論が必要な程、面倒な問題ではない。

歴史を見れば分る事であるが社會の組織――組立て――といふものは、永久不變のものでなく、常に變化して行く。例へば五十年前までは、日本の社會は、封建諸侯が武力を以つて百姓を搾り取るやうな組織であつた。今は地主が土地を所有して居ることによつて、小作人を搾り取るやうな組織である。封建の社會組織の以前にも幾つも組織があつた。それ等は何れも順々に次の組織へと變つて來た。それと全く同樣に、地主と小作人とがあつて、地主が搾り小作人が搾らるゝやうな今の社會組織も、亦永久に續くべきものではない。

總ての社會の組織は、その社會組織の不都合や無理が、種々の形で現はれて來るやうになると、もう次の社會に移り變る時が近づいておると考へていゝ。歴史上何時もそうであつた。今の社會に於ても亦、同樣であるに違いない。

それならば、都會に於て益々盛になる勞働爭議も、農村に於て益々盛になる小作爭議も、都會では資本主義制度が廣がり、農村では地主制度が固つて居る所の今の社會組織がいよいよ行き詰つて、もうどうしても次の社會組織へ移らねばならぬやうになつて居る事を、語り示しておると見て取つていゝ。

たゞ、新らしい社會が生れるには産婆の役を勤める者がなくてはならぬ。その役目を果すものは誰であらうか。言ふ迄もなく都會では賃銀勞働者、農村では小作人である。

そうして、小作人も賃銀勞働者も、今の社會組織では搾り取らるゝ運命に居る所の、同じ階級だといふ事をしつかり考へ、一方では此の社會組織は、やがて崩れて次の社會に移り變るといふ事を固く信じ、深い底力を腹に潜めて、一歩々々と踏み進んで行く運動こそ、實に産婆役の仕事である。

世の中が變れば、そこには人が人を搾り取るといふ、そうして搾る者は榮華を極め、搾らるゝ者は食ふや食はずの苦しみに一生を終るといふ、許すべからざる大罪惡は一切跡を絶つ。

人間の眞に人間らしい生活、人と人とが本統に親しみ合ひ、本統に結び合ふ生活、強い者の力は、其儘全人類の利福の爲に役立つ社會組織、個人々々の天賦の力が思ふ儘に發揮されるやうな社會組織、それ等がもう社會主義者の理想ではなくて眼の前の事實となるであらう。

その日の一日々々と近づきつゝある事を我々は固く信じなければならぬ。信ずる事が我々の一切の仕事の始めである。

農村階級化の速度

自作農家の數が年々減つてゐることはもう一般に信ぜられてゐるが、最近約十五年間に左の如き數を示してゐる。

	自作農家數	全農家の割合
明治四十一年	一、七七六、八七五戸	三二・八〇%
大正三年	一、七三一、二四七	三一・七三%
大正六年	一、六九四、二九七	三一・〇〇%
大正九年	一、六八二、三九七	三〇・六八%

それと同時に、小作農は段々増加して來た。即ち左の如き數を示してゐる。

	小作農家數	全作家との割合
明治四十一年	一、五〇〇、〇五五	二七・七一%
大正三年	一、五三一、四七六	二七・八七%
大正六年	一、五五四、六六六	二八・〇二%
大正九年	一、五五七、八四七	二八・四一%

自作農が失ふた土地は地主の手に移るが、それは主に大地主である。そこの事情は左の數字が語つてゐる。

	十町以上の地主	五十町以上の地主
明治四十一年	四一、三六六戸	二、八九九戸
大正三年	四一、四二八	三、三九九
大正六年	四二、六〇一	三、四八五
大正九年	四六、九七八	四、八二六

中間社會の自作農が減つて、地主と小作人とが増加する。これが即ち農村の階級化である。

このやうな速度で、日本の農村は、搾り取る者と搾り取られる者との對立が進んで居る。如何に農民運動の嫌ひの人でも、如何に小作人派動を惡く思ふて居る人でも、此の事實を無視する事だけは出來ないであらう。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時計眼鏡
貴金屬装身具
測量製圖器械

玉屋商店

東京銀座三丁目
電話京橋（三〇五 三〇〇六 三〇〇七 一〇九九）
振替口座東京四〇八

金、銀、白金

德力本店

東京市神田區松田町

水谷憲風、藤田貞二編著

社會問題大觀

（定價五圓 送料十六錢）

布装四六判五六〇頁

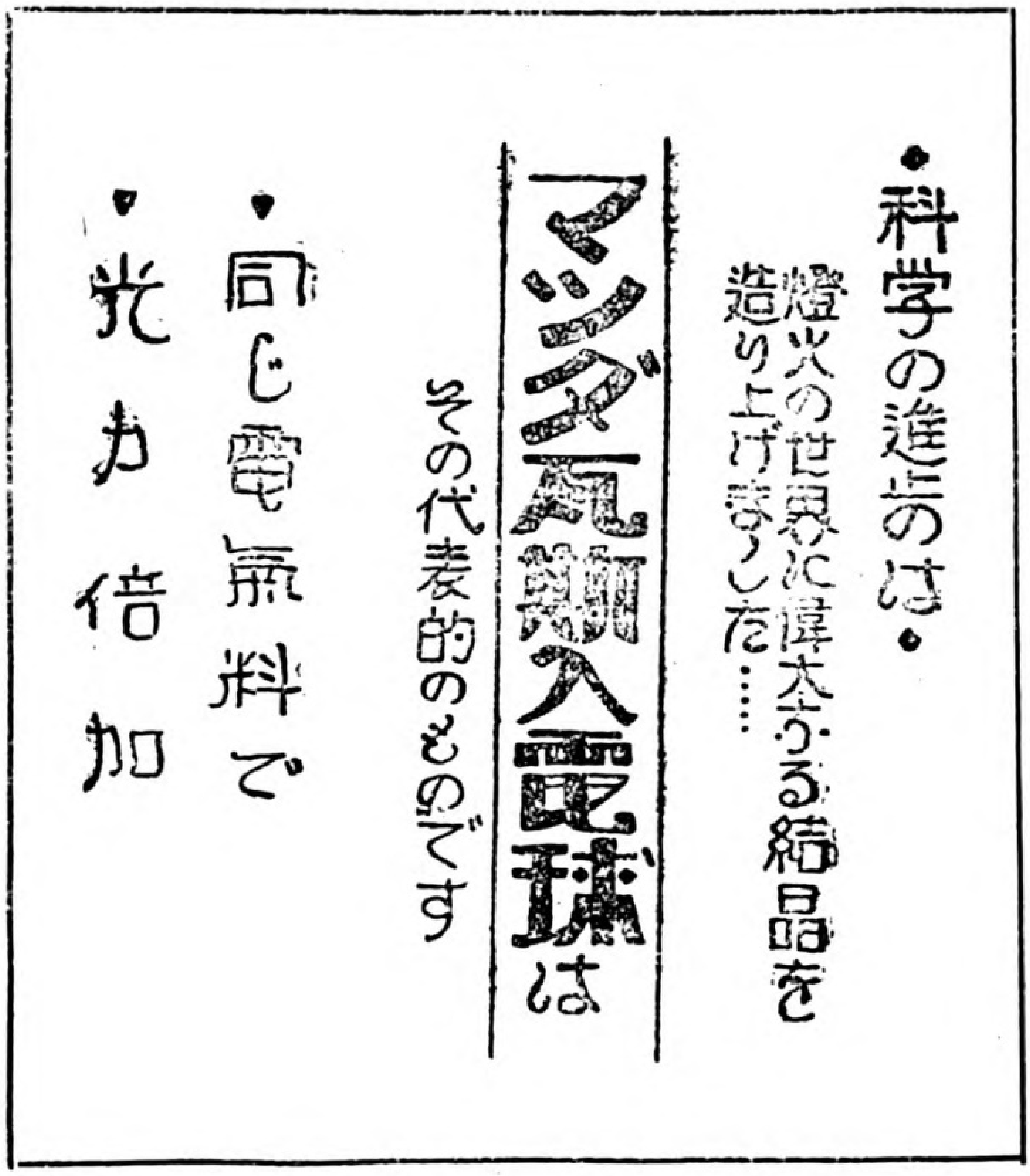
發行所 共有出版社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

本店新築中
營業所ニ假營業仕候
"EXCELLENT"
東京銀座二丁目
服部時計店
歐米時計類
眼鏡双眼鏡
測量諸器械
プラチナ地金
精工舎時計
ダイヤモンド
紀念盃徽章
寶石指環類
各種裝身具

東京
三越呉服店
名所

實母散
本舗
東京京橋區中橋大鋸町
喜谷市郎右衛門
▲全國到る處に販賣す


科学の進歩のは
燈火の世界に偉大なる結晶を
造り上げました……
マツダ瓦斯入電球は
その代表的のものです
同じ電氣料で
光力倍加

□堺利彦氏著

一休和尚

中判紙装頗美本
紙數三百六十頁
定價壹圓参拾錢
郵送料一部八錢

佐藤牧山氏著

老子講義

價貳圓
税八錢

荒畑寒村新著

最新刊

光を掲ぐる者

（西村陽吉装幀）

暗黒と困苦と頽廢との世界に、光を掲げて進む者は何人ぞや？ 社會黨の闘士が血を以て描ける闘争記録!!!

内容

○靴の悲哀○道頓堀界隈○獄を出てから○革命黨か密偵か○無政府主義思想の墳墓○勞農ロシア攻撃の素養○幻滅の幼兒○社會進化論○近代劇論○ファスト論○個人主義の破滅○電車問題長講三席○パブリツク・ビイ・ダンムド○同盟罷工○盗難行○川柳憎まれ口○武器の發明家○光を掲ぐる者○電工○艦底○逃避行○冬○父親○鼠小僧と蜆賣○紀文大盡○露國演藝團

四六判紙装四〇〇頁
定價貳圓卅錢
送費一冊金八錢

發行所 東京市日本橋區檜物町九番地 東雲堂書店 振替東京五六一四 電話本局一八八一

石川啄木氏著

啄木遺稿

價壹圓五拾錢
税八錢

□西村陽吉氏著

新社會への藝術

四六判洋布装函入
紙數五百餘頁
定價貳圓参拾錢
郵送金八錢

大鐙閣好評社會書目

東京神田今川小路　大阪市三休橋南詰　大鐙閣發行　振替 東京三三六一八番 大阪二七一五五番

社會學體系論

バルト博士著　波多野鼎譯

第三版　定價三圓八十錢　送料十二錢　菊判總クロース 極上製箱入

本書はバルト博士の世界的名著『社會學としての歴史哲學』中の一篇の譯書である。バルト博士が『社會學は人類の歴史的發展に於ける法則を究明するをその任務とする』との見解に立つて、社會學者の諸説を解説し、批判せる本書は、社會學説の歴史と眞髓とを明確に語り、社會學の研究に入らんとするものにとつては、最も剴切なる著述である。

社會民主黨綱領

カウツキー著　三輪壽壯譯

第三版　定價二圓八十錢　送料十二錢　四六版總クロース 極上製箱入

本書はマルクス派社會主義の理論的權威たるカウツキーが、その起草せるエルフルト綱領に基いて、これを敷衍し、理論づけ且説明するために書かれたる通俗的註釋書である。それは、社會主義の教案として、社會主義に親しまうとする人の爲に、また社會主義を宣傳する人の爲に指針となることを目的として、平易に書き下したる貴重なる文獻である。

- ウンターマン著　山川均譯　マルクス經濟學 —定價二圓八十錢・送料十二錢—
- エンゲルス著　堺利彦譯　空想的及科學的社會主義 —定價二圓・送料十二錢—
- ゴルテル原著　堺利彦譯　唯物史觀解説 —定價二圓二十錢・送料十二錢—
- 堺利彦 山川均 共著　マルクス傳（附エンゲルス傳） —定價二圓八十錢・送料十二錢—
- ロイド原著　荒畑寒村譯　勞働組合論 —定價二圓五十錢・送料十二錢—
- フランツ・オッペンハイマー著　岡上守道譯　國家論 —定價二圓五十錢・送料十二錢—
- カウツキー著　高畠素之譯　マルクス資本論解説 —定價三圓二十錢・送料十二錢—
- ラファルグ著　高畠素之譯　財産進化論 —定價二圓二十錢・送料十二錢—
- ラファルグ著　千葉雄次郎譯　社會主義社會觀 —定價二圓三十錢・送料十二錢—
- 石川三四郎著　西洋社會運動史 —定價四圓五十錢・送料十二錢—
- 佐野學著　露西亞經濟史研究 —定價六圓八十錢・送料十八錢—
- 三浦周行著　國史上の社會問題 —定價二圓七十錢・送料十二錢—

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

パンフレットを讀め

社會主義運動は思想運動から始まる。思想に對する理解を抱くと言ふ事は、すべての運動の第一歩である。

パンフレットやリーフレットは簡單な用意の下に、社會主義の智識を一通り吸收する爲めに、最も適當な讀みものである。深き專門的な研究は勿論出來ないが、智識の入口はこれである。

農民の立場
スヽメ・リーフレット1

此の雜誌に載せてある『農民の立場』四頁を、そのまゝ獨立のリーフレットとする

一部一錢・十部六錢・百部四十錢
送料二十部まで二錢

社會主義の宣傳は思想の宣傳から始まらなければならぬ。それにはパンフレット、リーフレットの配布が最も適當である。如何なる場合にも許さるべき方法として、諸君の運動は、これから始める事が最も容易である。

進め社は下記のパンフレットを取次ぎする。始めての人には選擇してあげてもいゝ。

リーフレットを讀め

山川均　資本主義のからくり

四六判七〇頁・一部三十錢

社會主義の全體を知るのに最も適當なパンフレット

目次

一、資本主義の生産　二、經濟組織の變遷　三、生産者と生産機關の分離　四、勞働の商品化　五、生産と消費との矛盾　六、資本制度の實費　七、人間勞費の制度　八、社會的生産と個人的所有との矛盾　九、生産力と財産制度と衝突　十、私有財産主義の動搖　十一、社會生活の危險と不安　十二、生活の改造　十三、自己改造の努力　十四、社會の改造　十五、鬪爭の生活

無産社リーフレット

- ▲金持と貧乏人　堺利彦　・〇二
- ▲婦人問題　山川菊榮　・〇二
- ▲勞働婦人の解放　山川菊榮　・〇二
- ▲勞働運動桃太郎　堺利彦　・〇二
- ▲智識階級に與ふ　山川均　・〇二
- ▲農村問題　山川均　・〇二
- ▲農民運動の目標　佐野學　・〇二
- ▲犬芝居と猿芝居　安成貞雄　・〇二
- ▲文學青年に與ふ　平林初之輔　・〇二
- ▲特殊民の解放　一特殊民　・〇二
- ▲宗教病者に與ふ　藤井眞澄　・〇二
- ▲小學教員に與ふ　中曾根源和　・〇二

無産社パンフレット

- ▲社會主義大意　堺利彦　・一〇
- ▲資本と勞働　堺利彦　・一〇
- ▲價値價格利潤(近刊)　堺利彦　・一〇

インターナショナルパンフレット

1. ロシア革命十一月七日　堺利彦　・一五
2. 日本社會主義運動史　荒畑寒村　・三〇
3. 無政府主義と共産主義　西雅雄　・一〇
4. 共産主義と教育　仲曾根源和　・一〇

インターナショナルリーフレット

1. インターナショナルの話　・〇二
2. ロシアの勞働組合運動　・〇二
3. 團結せよ！組織せよ！　・〇二
4. 青年運動　・〇二
5. 勞働組合と組合員　・〇二

山川菊榮　メーデー

メーデーの意義、目的、歴史などを知るに最も適當なパンフレット。メーデー宣傳用に最も適當なパンフレット。

一部拾錢・郵稅ト部まで二錢
多數の注文は強度の割引

目次

メーデーの意義・メーデーの歴史・シカゴの悲劇・佛蘭西のメーデー・世界大戰とメーデー・巴里のメーデー・勞農露西亞のメーデー

水曜會パンフレット

- ▲牙を拔かれた狼　山川菊榮　・一〇
- ▲怠惰と社會主義　堺利彦　・一〇
- ▲タンクの水　山川均　・一〇
- ▲勞農ロシヤ問答　横田千之　・一〇
- ▲勞農ロシアの農業制度　山川菊榮　・一五
- ▲私は何故社會主義者になつたか　西雅雄　・一〇
- ▲社會主義の進化　山川菊榮　・一五
- ▲リープクネヒト　山川菊榮　・一五
- ▲メーデー(勞働祭)　山川菊榮　・一〇
- ▲二人の革命家と二人の勞働者　山川菊榮　・一〇

文化學會パンフレット

- ▲社會主義者になつたら　堺利彦　・四〇
- ▲ギルド社會主義　森戸辰男　・四〇
- ▲社會主義とは何ぞや　島中雄三　・四〇
- ▲レニンの社會學說　淺野研眞　・四〇
- ▲直接行動論　島中雄三　・四〇

大正十二年五月一日發行
大正十二年一月三十日第三種郵便物認可
●毎月一回一日發行
●定價　一部十錢　一年一圓
廣告料　一行一圓　一頁三十圓
●發行所　東京府下荏原郡大井町鈴ケ森二四七八(振替東京一二八七四)　日本勞働協會
發行人　藤田狂二
編輯人　北原龍雄
印刷人　高野松太郎

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN